平成29年度

恩納村青年海外派遣事業

第１期

恩 納 村

は　じ　め　に

恩納村青年海外派遣事業は、恩納村出身の青年を恩納村出身者海外移住国であります、カナダ・アメリカ合衆国・ボリビア・アルゼンチン共和国・ブラジル連邦共和国・ペルー共和国にいずれかの国に派遣し、村人会並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的に実施しております。

本事業は、今年度より新たに実施した事業で、ブラジルやボリビアの村人会や県人会を始めとする現地の方々や研修生の職場、その他関係者の皆様のご協力により無事に終了いたしました。

派遣した研修生を快く受け入れてくださったホストファミリーの方々には心から感謝申し上げます。

研修生の二人は、各地域の皆様からの歓迎、温かく迎え入れてくれたホストファミリーと有意義な日々を過ごし、沖縄への思いに触れ、移住国と恩納村の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、沖縄や日本と違った数々の土地や文化を見学することで、「国際的な」感覚も感じ取れたと思います。

二人には、１か月間を通じて得た貴重な体験を糧に、地域活動には励むとともに、今後もホストファミリーとの交流や受入事業にて沖縄に来る研修生との交流など、恩納村と移住国の友好親善の懸け橋として活躍されることを心から期待しております。

終わりに、本事業の実施にするに当たり、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げるとともに、今後とも本村の国際交流の推進に対し、ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げ、ごあいさつといたします。

平成３０年３月

恩納村長　　長浜　善巳

目　次

はじめに

１．平成２９年度恩納村青年海外派遣事業研修生名簿・・・・・・・・・　１

２．研修生日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

３．研修報告書等
（１）山城 修吾
研修報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
修 了 証 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
（２）長濱 茜
研修報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
修 了 証 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９

４．スナップ写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１

５．参考資料
（１）恩納村青年海外派遣事業実施規則・・・・・・・・・・・・・５９
（２）恩納村青年海外派遣事業実績・・・・・・・・・・・・・・・６２

平成２９（2017）年度
恩納村青年海外派遣事業研修生名簿
第１期研修生

（ 恩納村派遣第１号 ）

氏　　名 ： 山城　修吾

生 年 月 日 ： 1988年9月15日（30歳　男性）
出　身　字 ： 恩納区
両 親 氏 名 ： （父）　山城　繁明
　　（母）　山城　千香子

派 遣 期 間 ： 平成30年1月9日～平成30年2月10日
派　遣　先 ： ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）
　　ボリビア

（ 恩納村派遣第２号 ）

氏　　名 ： 長濱　茜

生 年 月 日 ： 1983年6月17日（34歳　女性）
出　身　字 ： 宇加地区
両 親 氏 名 ： （父）　長濱　馨
　　（母）　長濱　マチ子

派 遣 期 間 ： 平成30年1月9日～平成30年2月10日
派　遣　先 ： ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）
　　ボリビア

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ボリビア

2017年1月9日～15日								
	火	水	木	金	土	日	月	
	1月9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM								6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM							朝食 （ボリビア風朝食体験）	9:00 AM
10:00 AM			フェーラへ （移動市場見学）	養老院見学（サントス厚生ホーム） 津嘉山キョウコさん（奥さん）ボランティア活動している。	サンパウロ発		コロニアオキナワに移動 佐渡山安男さん同行	10:00 AM
11:00 AM		サンパウロ着			サンタクルス着	津嘉山昭さんが 所有するマンションへ		11:00 AM
12:00 PM		サントスへ （津嘉山敏夫さん宅）	サントススタジアム見学	昼食 養老院にて	昼食 ボリビア料理のレストランへ			12:00 PM
1:00 PM						昼食 昭さんの奥さん洋子さんが所有するレストラン	昼食 （コロニア第二移住地）	1:00 PM
2:00 PM	ヒューストン着		パステオ工場見学 （津嘉山家三男 操さん運営）	コーヒー博物館視察		津嘉山昭さんの畑見学	真栄城カズオさん宅へ	2:00 PM
3:00 PM		昼食（サントス） 大衆食堂	昼食 （バイキング形式ブラジル食堂）	サントス中心地視察	コロニアオキナワ 成人式視察		農業見学（大豆/小麦） （佐渡山安男さん所有）	3:00 PM
4:00 PM				日系スーパー視察				4:00 PM
5:00 PM		宿泊場所へ	敏夫さんの仕事現場見学 （分譲マンション工事現場）		沖縄相撲見学	ショッピングモール見学	デオグランデ川見学	5:00 PM
6:00 PM			敏夫さんの仕事現場見学 （リサイクル工場）	サントスビーチ見学			収穫機械の見学 （佐渡山安男さん所有）	6:00 PM
7:00 PM			敏夫さんの仕事現場見学 （アルミサッシ工場）		夕食 婦人会提供の沖縄そば	夕食 （ショッピングモールにて）	夕食 （第二移住地の皆様と交流BBQ）	7:00 PM
8:00 PM			敏夫さんの仕事現場見学 （アサイフルーツ工場見学）/モール見学	夕食 津嘉山一家とシェラスコレストランへ	牛の屠殺場見学 （津嘉山修さんが利用）	真栄城エミ子さんに面会 （元恩納村研修生）		8:00 PM
9:00 PM	ヒューストン発	夕食 サントスビーチ沿いにて	夕食 （ブラジル式pizza）		宿泊 津嘉山修さん宅			9:00 PM
10:00 PM						宿泊 津嘉山修さん宅		10:00 PM
11:00 PM								11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ボリビア

2017年1月16日～22日								
	火	水	木	金	土	日	月	
	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM								6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM					朝食 （渡久地家）	朝食 （津嘉山家）	朝食 （高速サービスエリア）	9:00 AM
10:00 AM	養豚場見学 （安里さん所有/名護市出身）	津嘉山美智子さん宅へ移動 （津嘉山修さん義理の姉）		朝食 （津嘉山美智子さん宅）	サンタクルス市内へ移動	面会 （津嘉山美智子さんの娘、梢さんと面会→元恩納村交流生）	サンパウロ発	10:00 AM
11:00 AM				渡久地家に移動	津嘉山修さん宅へ		カンポグランデ着	11:00 AM
12:00 PM	昼食 （ボリビア村人会からの歓迎会/新年会）	昼食 （美智子さん手作り沖縄料理）	昼食 （比嘉食堂にて/第一移住地）	昼食 （渡久地家）	昼食 （市内の日本料理店へ）	サンタクルス発		12:00 PM
1:00 PM		農作物見学 （美智子さん三男　津嘉山慎悟さん所有の畑へ）					昼食 （県人会の皆様と日系レストランにて）	1:00 PM
2:00 PM	移住者との面会 （修さんの妻 アツエさんのご両親と面会）		ボリビア最長の橋見学	移住者との面会 （真栄城得治さん1927年生まれの90歳）	民芸品店見学		各宿泊場所へ （山城→山内さん宅/長濱→源河さん宅）	2:00 PM
3:00 PM	酪農牧場見学	大豆畑/トウモロコシ畑見学	CAICO見学（農協施設）		市内教会見学			3:00 PM
4:00 PM	日本語学校見学		サイロ見学 （農作物品質管理の現場へ）	うちなーんちゅが経営している釣り堀へ/釣り体験	アツエさんの叔母さんが経営するサロン見学	サンパウロ着	カンポグランデ県人会館にて交流	4:00 PM
5:00 PM	移住者との面会 （佐渡山安男さんの母 秀さんとの面会）	津嘉山修さん所有の牧場見学	パスタ工場見学	釣り堀にてうちなーんちゅの皆様と交流		サントスへ移動		5:00 PM
6:00 PM	移住者との面会 （真栄城和夫さんの母 初子さんとの面会）		沖縄・ボリビア資料館見学		真栄城エミ子さんとの面会			6:00 PM
7:00 PM		夕食 （津嘉山美智子さん宅）		夕食 （渡久地一家にて）	夕食 （ショッピングモールにてボリビア料理）		夕食 （源河さん宅にて沖縄そば）	7:00 PM
8:00 PM	夕食 （真栄城健さん宅にて）		夕食 （津嘉山美智子さん宅）			夕食 （敏夫さん経営するイベント会場にて）		8:00 PM
9:00 PM	コロニア青年会との交流会			渡久地家との交流カラオケ	交流会 （アツエさん従姉妹　サトシさん,友人ショウジさんと交流）			9:00 PM
10:00 PM								10:00 PM
11:00 PM								11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ボリビア

2017年1月23日～29日							
	火	水	木	金	土	日	月	
	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM					カンポグランデ発			6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM					クリチーバ着			8:00 AM
9:00 AM		朝食 （各宿泊宅にて）	朝食 （各宿泊宅にて）				朝食 （名嘉真さん宅にて）	9:00 AM
10:00 AM	朝食 （各宿泊宅にて）			朝食 （各宿泊宅にて）		移動市場にて朝食	名嘉真さん 経営の歯医者視察	10:00 AM
11:00 AM	源河さん宅の 製麺工場見学	面会 （山内良子さん従兄弟　比嘉マサシゲさんと面会/安富祖出身1世）	各家族との交流			移動市場散策		11:00 AM
12:00 PM						昼食 ロンドリーナ恩納村出身県人会からの歓迎会	昼食 （名嘉真さん家にてバター焼き）	12:00 PM
1:00 PM	昼食（各宿泊宅にて）	昼食 （山内良子さん宅にて）	昼食 （各宿泊宅にて）	昼食 （各宿泊宅にて）	クリチーバ発			1:00 PM
2:00 PM					ロンドリーナ着		村出身者2世荻堂さん経営のオーガニックショップへ	2:00 PM
3:00 PM	市場見学	スーパーにて買い出し	モール見学/買い物	移住者との面会 （山内盛光さんのご家族と面会）	宿泊宅へ移動 （名嘉真さん）	移住者との面会 （プリシーラさんの祖父母のお家へ）		3:00 PM
4:00 PM	市営公園見学			うちなーんちゅ 三世の方々と交流会	名嘉真夫妻/ プリシーラ夫妻と交流		ロンドリーナ大学視察	4:00 PM
5:00 PM	移住者との面会 （石川盛得さん宅/恩納村出身）	市場　見学 （沖縄そばレストランを見学）						5:00 PM
6:00 PM			県人会主催の歓迎会出席					6:00 PM
7:00 PM	夕食 （日系人が経営するカラオケレストランでの交流夕食会）	夕食 （老舗中華レストランにて/日系人経営）		（源河さん宅にてブラジル式BBQ）	夕食 名嘉真夫妻と近くのピザ屋さんへ	夕食 プリシーラさんの夫妻とブラジル料理	夕食 （名嘉真さん長男/長女の家族と一緒にて）	7:00 PM
8:00 PM					名嘉真さんの家に宿泊			8:00 PM
9:00 PM						名嘉真さんの家に宿泊		9:00 PM
10:00 PM								10:00 PM
11:00 PM								11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ボリビア

2017年1月30日～2月5日								
	火	水	木	金	土	日	月	
	30日	31日	2月1日	2日	3日	4日	5日	
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM								6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM	朝食 （名嘉真さん宅にて）		朝食 （名嘉真さん宅にて）	朝食 （名嘉真さん宅にて）	朝食 （真栄城さん宅にて）	朝食 （真栄城さん宅にて）	イグアスの滝にて移動	9:00 AM
10:00 AM	スーパー見学 （県系移民の仲程さんが経営）	朝食 （名嘉真さん宅にて）		ロンドリーナ発	棚原栄一さん経営の鋼材店へ			10:00 AM
11:00 AM				サンパウロ着	棚原国雄さん経営の鋼材店へ	サッカーミュージアム見学		11:00 AM
12:00 PM	昼食 （恩納村出身の田畑さんが経営するレストランにて）		昼食 （ブラジル料理シェラスコへ）	サンパウロ市内へ	昼食 （サンパウロ東洋街にて韓国料理）		イグアスの滝　視察	12:00 PM
1:00 PM		昼食 （プリシーラさんの家族とレストランへ）		昼食 （真栄城さん　棚原さんと日本食レストランへ）				1:00 PM
2:00 PM			コーヒー農園視察		ブラジル日本移民資料館　見学	昼食 （ブラジル料理シェラスコへ）	昼食 （イグアスの滝にて）	2:00 PM
3:00 PM	移住者との面会 （村出身移民1世　荻堂絹さんのご家族と面会）	パラナ州日本移民資料館見学		ブラジル沖縄県人会本部へ				3:00 PM
4:00 PM		ロンドリーナ市役所/市議議会場			サンパウロ市内散策 （ジャパンハウス視察）	ショッピングモール/ディスカウントストア　見学	パラグアイの国境付近を散策	4:00 PM
5:00 PM		ロンドリーナ市議田村さん面会		真栄城さん宅へ移動				5:00 PM
6:00 PM	移民100周年記念見学	日本語学校視察 （MEGUMI学園）		市内散策 （路線バス乗車/スーパーマーケット）			サンパウロへ	6:00 PM
7:00 PM	プリシーラさんと一緒にブラジルダンス見学	市内公園散策	夕食 （日系3世の方々と送別会）		夕食 （真栄城さん宅にて）	夕食 （恩納村出身からの歓迎夕食会）		7:00 PM
8:00 PM	夕食 （日系3世の若者と交流）	県系移民バレーボールチーム「友情」の歓迎バレーボー大会に参加		夕食 （真栄城さん　3女トモミさんと一緒にて）				8:00 PM
9:00 PM					沖縄芝居のDVD鑑賞 （移民2-3世の演舞）		サントスへ移動	9:00 PM
10:00 PM		夕食 （日系人が経営するホットドック屋さんにて）				棚原国雄さん宅にて宿泊		10:00 PM
11:00 PM							夕食 （アラブ料理のチェーン店にて）	11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

恩納村青年海外派遣事業行程表

ブラジル・ボリビア

2017年2月6日～2月10日								
	火	水	木	金	土			
	6日	7日	8日	9日	10日			
5:00 AM								5:00 AM
6:00 AM				ヒューストン着				6:00 AM
7:00 AM								7:00 AM
8:00 AM								8:00 AM
9:00 AM		朝食 （津嘉山さん宅にて）	朝食 （津嘉山さん宅にて）					9:00 AM
10:00 AM				ヒューストン発				10:00 AM
11:00 AM	昼食 （津嘉山さん宅にて）	移動市場見学						11:00 AM
12:00 PM		津嘉山キョウコさん の妹さんのお宅へ	スーパーマーケット へ買い出し					12:00 PM
1:00 PM								1:00 PM
2:00 PM	ショッピングモール にて買い出し	サントスビーチ散策	昼食 （津嘉山さん宅にて）					2:00 PM
3:00 PM					成田着			3:00 PM
4:00 PM		サントス市内視察 （ケーブルカーにて高台より）	荷造り					4:00 PM
5:00 PM		津嘉山さん家族のお墓参り			成田発			5:00 PM
6:00 PM			サンパウロ市内へ移動					6:00 PM
7:00 PM	夕食 （津嘉山さん宅にてBBQ）	カーニヴァル見学						7:00 PM
8:00 PM		夕食 （津嘉山宅にて津嘉山家 族と送別会）						8:00 PM
9:00 PM					沖縄着			9:00 PM
10:00 PM								10:00 PM
11:00 PM			サンパウロ発					11:00 PM
12:00 AM								12:00 AM

山城　修吾

《サントス滞在》

1/10(水)　サントス1日目

研修1日目。空港では恩納村の緑の旗を持って、津嘉山敏夫さん、津嘉山則夫さん、真栄城徳平さん、棚原栄一さん、棚原国雄さんが出迎えてくれ、一気に安心感が沸きました。
その後は、津嘉山敏夫さんの住むサントスまで、車で向かいました。
昼食を典型的なブラジルの大衆食堂でいただき、宿泊先の敏夫さんのお家へ。
一休みをした後、夕食は津嘉山さん一家と一緒にビーチ沿いのレストランへ。
サントスは港町兼、サンパウロに住む人達のリゾート地。
ビーチ沿いのレストランは夜遅くまで、地元の人と観光客で賑わってました。
その日は旅の疲れを癒やすために早めに就寝。

1/11(木)　サントス2日目

研修2日目。この日は朝から、フェーラと呼ばれる移動市場へ。
フェーラでは津嘉山家が経済的な土台を最初に築いたパステオを販売しているお店へ。パステオとは中にお肉やチーズ等を入れて、油で揚げた天ぷらみたいなイメージで、ブラジルではこれをおやつ感覚で食べたり、朝食として食べたりしているとの事。移動市場内では、パステオを販売できる権利数が決まっており、それを最初に1,500万円程で購入した後に、初めてお店を運営出来るとの事でした。
津嘉山家は、その権利を家族同士で譲渡しあいながら財を築いていっていました。
その後、サントスサッカースタジアムや、パステオを実際に作っている工場を見学。機械が導入されており、かなりオートマティックに仕事を行っておりました。
その後は、敏夫さんが手掛けている分譲マンションの見学や、倉庫を工場店舗として場貸しいる現場を見学。
敏夫さんの働いている姿は見ていると、取引先から信頼されている事を本当に強く感じた1日でした。

1/12(金)　サントス3日目

研修3日目。津嘉山敏夫さんの奥さんキョウコさんがボランティアとして携わっている養老院を見学。そこの養老院は、日系人の割合が90％を占めていて、スタッフもほとんど日系のスタッフで運営。キョウコさんは、そこで週二回程、ボランティアとしてお仕事を手伝っているとの事でした。
その後は、コーヒー博物館にてコーヒー農業の歴史を勉強。サントスの旧市街を歩いて散策。ヨーロッパのようにブラジルでは昔の建築物を残そうとする動きが活発で、旧市街の雰囲気はまるで中世のヨーロッパのようでした。
その後は、サントスのビーチ沿いを散策。地元の人がランニングをしていたり、観光客がビーチを楽しんでいたりと、こういうビーチ沿いの文化は恩納村、日本にはあまりない風景で新鮮でした。
夜はシュラスコというブラジル式BBQを津嘉山家全員で楽しみました。
私がこの短い滞在で、強く思った事は「ブラジルの人達は家族の繋がり」が強いという事。「兄弟」や「家族」みんなで「豊かなになっていこう。」という意識が強く、これは沖縄に帰ったら見習いたい所だと感じました。

《ボリビア滞在》

1/13(土)　ボリビア1日目

ボリビア1日目。サンタクルスの空港には、津嘉山修さん夫妻、佐渡山安男さん、津嘉山昭さんが迎えにきてくれており、昼食は市内の人気のレストランへ。
牛タンを使った料理や食用バナナを使った料理等、ブラジル料理との違いを楽しみながら、昼食を取りました。
ワニを使った「セヴィーチェ」という料理が美味しく、食感や味はどこか鶏肉に似ていました。
その日はタイミングよくコロニアオキナワ移住地で「成人式」が行われているとの事だったので、移住地に見学に連れて行ってもらいました。
毎年移住地では成人の日に、コロニアオキナワ移住地全体で「成人式」が行われてとの事。成人の皆さんは着物や袴を着て、成人のお祝いを楽しんでいました。
成人式の後は「沖縄相撲」を行われ、子供から大人まで全員で相撲を楽しんでいたのが、すごく印象的でした。

婦人会の皆さんは、沖縄そばや天ぷらを販売し、成人式を盛り上げ、お年寄りの皆様は、沖縄相撲の周りに集まり全員の子供達を応援。
子供達は、年齢に関係なく仲良しで、この雰囲気が、私が子供の時の恩納村の地域行事にかなり似ているモノを感じました。
ボリビアには、少し昔の沖縄の良い所が沢山残っているのでは？と思った一日目でした。

1/14(日)　ボリビア2日目

ボリビア2日目。その日は津嘉山昭さんにアテンドしてもらい市内を回りました。
お昼ご飯は津嘉山さんの奥さんが運営している、食堂にお邪魔し、ボリビア料理をいただきました。
ボリビアでは大衆食堂の事を「ペンシオ」と呼び、そこの食堂ではドイツからボリビアに移民できた人達に好まれている食事を提供しており、お客さんの90%以上が、ドイツ移民との事。
この様に、沖縄料理や日本料理だけではなく、現地のニーズに対応したビジネスを展開している姿が私は印象的でした。
津嘉山昭さんは、サンタクルス市内に住んでおり飲食店の運営だけではなく「不動産の運営」や「魚の養殖」等、色んな事業を多角的に展開しており、すごく為になるお話をいっぱい聴かせてくれました。
　現在、ボリビアでは土地の価値が最低でも年間12%程上昇しており、銀行の金利よりも良いため、不動産に投資をする人が増えているとの事。
また、外国の投資家からも外貨が流れ込んでおり、それがボリビアの経済成長を後押ししているとの事でした。
　農業、不動産、お店、魚の養殖と、多角的に事業に展開する事がリスクヘッジに繋がり、事業が安定する。という昭さんの言葉がすごく印象的でした。
ボリビアは政治がまだ安定していないため、ビジネスをする際も、リスクを考える事が大切との事でした。

1/15(月)　ボリビア3日目

ボリビア3日目。コロニア沖縄第二移住地までドライバー南恩納出身の佐渡山さんの

車にて移動。昨日大雨により、移住地までの道は大荒れで、アスファルトが整備されていない道は川から水が浸水していました。
市内で降った雨は、標高が少し下がっている移住地に流れ込むため、このような状況は雨が降ったら通常のことらしい。
サンタクルスの市内から『第一移住地』までの道のりは整備された道でいけるが、『第二移住地』『第三移住地』までの道のりは整備されていない砂利の道を行かなければならない状況らしい。
その日は実際に佐渡山さんに農業の現場を見せてもらい、ボリビアの農業のスケールの大きさを感じた１日だった。
佐渡山さんの農作物は「米」「大豆」「小麦」等が中心。ペルー、コロンビア等の近隣の南米諸国にも輸出を行っている規模の大きさだ。
現地の従業員６名程雇い、運営をしている。
移住の際に、ボリビアから与えられた土地はたったの「50ヘクタール」（50ヘクタールでは家族は養っていけないとの事）
その後、同じ県民移住の方々がボリビアを去る時に土地を売ってもらいどんどん規模を拡大していったとのこと。
厳しい異国の地で、粘り強く農業と向き合ってきた人たちが成功していると感じた一日だった。その晩は近隣の方が歓迎会を開いてくれて、食事をしながら色んな話を聞く事が出来た。
真栄城初子さん(87歳)のおばあちゃんがボリビア移民1世で、初子さん以外は今ほとんど2世の方でコロニア沖縄第二移住地は構成されている。
2世の方はもちろんスペイン語も喋れるが、「日本語」がかなり堪能。
その理由は、皆さんボリビアの農業が不景気だった1980年代～2000年ぐらいにかけて神奈川県や群馬、長野県等で長期的な「出稼ぎ」労働を経験しているからみたいだ。
本土で貯めたお金で、農業の機械を購入したり、土地やレストランを購入したりと、今の自営業の基盤を作ったとの事。
その日は「真栄城和夫さん」のお家に宿泊。
日本ではなかなか食べられないボリビア式のBBQを楽しみながら、色んな人の人生経験が聞けた楽しい夜だった。

1/16(火) ボリビア4日目

ボリビア4日目。
早朝から第三移住地の安里さん(名護出身)が営む養豚場を見学。
全部で約7,000匹を養っており、お産の出来るメスを中心に養豚場は回っていました。平均1年に2,5回子供を産み、平均寿命は約2年。
工サやり等は、かなりオートマティックに仕組み化されており、現場の仕事は基本的に住み込みの現地の家族が行っている。
牛を飼っている移民の方が多い中、養豚場を経営している人はコロニアでは安里さん一人。沖縄料理を作る家系もかなり多いため、安里さんから購入する県民移民も多いとの事。
お昼ご飯は「恩納村県人会」の皆様が開いてくれた、歓迎会に参加。
南恩納出身の方が多く「佐渡山」「津嘉山」「當山」「真栄城」「渡久地」性の方で県人会のほとんどを占めていた。地球の裏側とは思えない、沖縄料理が並び、そこの場所を借りて研修生の自己紹介をさせていただきました。
県人会は会費制で、様々な行事にその会費は使われており、今回は今年で100歳を迎える佐渡山さんのおばあちゃんにお祝いが渡されていました。
県人会の後は、色んなお家の方々にお邪魔させていただき貴重なお話を聴きました。特に印象に残っているお話は一世の方々が最初にボリビアにきた時のお話。
本当にジャングルの状態から、少しづつ山を切り崩し農地を開拓していったお話がリアルで考えさせられる事が多かったです。
また、2世の方々が「親父の代はもっと苦労しているよ！」としきりに仰っていたのがすごく印象的でした。
※追伸
その日は1月16日で皆さん沖縄と同じように、仏壇にお供えものをしているのが驚きでした。

1/17(水) ボリビア5日目

ボリビア5日目。
今日から「津嘉山しんごさん」のお家に2泊お世話になります。
その日はお昼からしんごさんの「大豆」「トウモロコシ」畑を見にいきました。
大豆は収穫までに平均3~4回の農薬を撒き、かなり大規模な機械で、現地で雇って

いるボリビア人従業員が作業を行う。
全体の支出の中で、農薬代金が一番大きな支出で、雨の降らない天気を見計らって農薬を撒くのが重要になってくるとの事。
スマートフォンを使って、細かく天気を確認しているのが印象的でした。
農薬の買い付け、準備、配合等をしんごさんが行い、実際の作業は機械を使って、現地のボリビア人従業員が行う役割分担。
「細かく指示を出す事」が現地のボリビア人と仕事を上手くやっていくコツとの事でした。
その後は、近くにある津嘉山修さんの牧場を見に行きました。
広大の敷地に、平均して1,000頭程のオス牛を飼っていて、全て食肉用。子牛の状態で購入し、大きくしてから販売していく手法。
買い付けと出荷のバランスによって、数は多少変動するが、平均して1,000頭は常にいる状態との事。
ボリビアやブラジルでは、牛肉の消費量が他の肉と比較すると圧倒的に高いので、常にニーズがある状態との事でした。
その日の夜は、お母さんのみつこさんのうちなー料理を食べ、色んな話を聴く事が出来ました。
しんごさんも若い時に、神奈川で出稼ぎ労働に出ており長い間「電気工事」関連の仕事をしていたとの事。
話を聴くと、日本でもかなりハードに働いていたおり
その経験が今のボリビアでの農業事業を支えているのだと感じました。

1/18(木) ボリビア6日目

ボリビア6日目。今日は第一移住地の「比嘉食堂」で昼食。
ボリビアの魚料理は「パク」という淡水魚が主に食べられていて、県民の皆さんも畑で養殖を行っていました。
川魚なのに、かなり脂がのっていて美味しかったです。
比嘉食堂はうちなーんちゅ移民の方が経営している食堂。日系人だけでなく、ボリビア人にも人気があるコロニアの大衆食堂との事。
そのあとはCAICO(農協のような組織)に見学に行きました。その日はたまたまCAICOの定例会議があり、農業を営んでいる県民の組合員の皆様は会議に参加。私達は別のスタッフの方が工場の中を案内してくれました。

CAICOの組合になるためには、1ヘクタール＝10ドルの組合費を払う必要がある。そのため持ってる土地が大きければ大きいほど、払う組合費も高くなる仕組みになっていました。
隣には、農協以外にも大豆や小麦等の農作物の品質を管理する会社が「株式会社」として存在し、そこでは主に品質管理、出荷する農作物のチェックを行っている。そこのスタッフは県民の系の方が多く、若い時に沖縄の農業大学に2年間程留学しているスタッフが数人いました。
農家さんから集まってきた大豆は品質管理後、2/3は家畜の飼料となり、1/3は油等の原料になるとの事。南米では、豆腐を食べる習慣が日系人以外はないため、原料として使用される事が多いらしいです。
その後、小麦の加工工場に移動し見学。工場ではパッケージに大きく「OKINAWA」と表記のある、色んな種類のパスタを作っておりました。
工場長や販売長は、沖縄移民2世の方が多く、日本語も堪能。
皆さん、本土や沖縄に留学した経験もあり、意識高くお仕事を行っておりました。
最後に第一移住地にある「オキナワボリビア歴史資料館」に足を運び、移民の歴史を学びました。きた当初の密林だった移住地を開拓していった様子を写真や実際に使っていた工具を見て学び、移民の人達の"大変さ"が身にしみました。
手書きで作成された"長い年表"には病気や災害等の様々な困難が記載されており、移民の皆さん一体となって進んできた歴史を強く感じました。

1/19(金) ボリビア7日目

ボリビア7日目。その日は第一移住地の渡久地マサノリさんのお宅にお世話になりました。渡久地さんの家族は息子が3名いて、3名とも日本人と同じようなレベルで日本語を使う事に驚きました。
昼食の後、真栄城得治さん1927年生まれの90歳(恩納村)出身の方のお家にお邪魔してお話を聴きました。
90歳という年で毎日ゲートボールに行き、車も自分で運転する。ボリビアのお年寄りは自分で何でも出来るお年寄りが多いです。
その後は、県民が運営する「釣り堀兼、ゴルフ場」へ。農業をしている皆さんの大切な娯楽施設になっており、多くの県出身者が集まっていました。
そこではバクという淡水魚が釣れ、川魚は淡泊なイメージがあったが、脂がのっており、刺身にしても美味しかったです。そこに集まるお父さん達から色んな話を聞

けて、かなり有意義な時間を過ごす事が出来ました。
夕食は渡久地家の皆さんと第一移住地にあるカラオケへ。
息子さん達は、日本で若者の間で流行っている曲ばかり歌っていたのがかなり印象的でした。やはり、漫画やアニメから入ってくる日本文化の影響は強く、その影響が、日本語学習へのモチベーションに直結していると強く感じました。

1/20(土) ボリビア8日目

ボリビア8日目。渡久地家の皆さんに送ってもらいサンタクルス市内へ。津嘉山修さんのお家に荷物置き、市内観光へ。日本食レストランにて昼食。価格は、けして安くないが、多くのボリビア人で賑わっておりました。その後は、民芸品や教会を見に、ダウンタウンへ。その後は、恩納村に研修できていた真栄城工ミ子さんと面会。工ミ子さんから当時沖縄に行った時にお世話になった人へのプレゼントを渡して欲しいとの依頼を受けました。そういう関係性を見ると、この交流事業の意義を強く感じました。夕食は津嘉山家の皆さんと一緒にショッピングモールでボリビア料理を楽しみました。

1/21(日) ボリビア9日目

ボリビア9日目。朝から元恩納村研修生「津嘉山梢さん」が逢いにきてくれました。当時の話を色々聴く事が出来ました。
空港へ移動し、お世話になった沢山の人たちに見送られて、ボリビアを後にしました。
ボリビアは沖縄よりもオキナワっぽさが残っている。それが私の一番最初にくる感想です。沖縄の人より助け合いの精神や、沖縄の伝統を残していこうという気持ちが強く、今一度「うちなーんちゅ」として大切にしていくべき事。を考えさせられる経験が非常に多かったです。戻ったら、もう一度うちなーんちゅとしてどう生きるか？考えていきたいと思いました。
サンパウロに着き、津嘉山敏夫さんの車でサントスへ。そのまま敏夫さんの知人の誕生日パーティーに参加させてもらいました。ブラジルでは1歳の誕生日を盛大に行うとの事。現在、敏夫さんは「パーティー会場」の貸し出しビジネスも行っており、今日の会場は敏夫さんが経営している会場を使ってのパーティーでした。

お祝い事を大きくする事は、ブラジルと沖縄の文化は非常に似ております。
これも「人との繋がり」を一番に思っているからこその「お祝い文化」なんだと感じました。

《カンポグランデ滞在》

1/22(月) カンポグランデ　1日目

カンポグランデ1日目。朝早くに敏夫さんにサンパウロの空港まで送って貰い、いざカンポグランデへ。空港に行くと、多くの県民の皆さんに出迎えてもらいました。私は恩納村出身の「山内良子さん」、長濱さんは羽地出身の「源河フミ工さん」のお家にお世話になる事になりました。皆さんで昼食を終えた後に、カンポグランデ県人会館にお邪魔。そこでは「琉球舞踊」をしたり「カラオケ」の練習をしたり、編み物をしたりと皆さん趣味嗜好に合わせた学びを行っており、皆さん活発に活動されておりました。私は日系3-4世の方々とバレーボールを楽しみ、若い方々とも触れ合う事が出来て楽しかったです。
夜は、源河さんのお家で特製の沖縄そばをいただきました。カンポグランデは沖縄そばが普通に浸透しており、源河さんはお家の隣に麺製造所まで完備しております。
ブラジル人からも「そば＝沖縄そば」という認識がすごく不思議で、そういう点でも県系移民の多大さを感じました。

1/23(火) カンポグランデ　2日目

カンポグランデ2日目。午前中は源河さんのお家で、麺作りを体験。本格的な機械で大量に作っていた為、需要の大きさを感じました。
午後は市場見学、公園見学に行きました。市場は活気があり、どこに行ってもブラジル人はフレンドリー。私たちが日本人だという事が分かると、どこからでも声をかけてきました。それはここに住んでいる日本人の印象がとてつもなく良いからだと思います。そういう親日家のイメージに助けられ、楽しくカンポグランデの街を見て回りました。
その後は、恩納村出身「石川盛得」さんのお家にお邪魔させてもらい昔の話を一杯聴きました。夜は山内さんのカラオケ仲間の皆さんとカラオケを楽しみました。カン

ポグランデは本土からの移民の皆様も多く、みんな仲良く混ざり合い、助け合っている姿が私は個人的にかなり好きでした。沖縄系の持ち歌はどんな時でも準備しておこうと強く思った夜でした。

1/24(水) カンポグランデ　3日目

カンポグランデ3日目。午前中は「山内良子」さんの従兄弟。「比嘉マサシゲ」さんと面会。(安富祖出身1世) 20年間程、日本に単身で出稼ぎをしていたお話がかなり衝撃的で、家族の大黒柱として日本で働いている時の話はすごく為になる話が多かったです。今は引退し「家族の隣にいる今が一番幸せ」という言葉がすごく印象的でした。
午後は良子さんと一緒にいつものスーパーにお出かけ。皆さんのいつも生活が見られて私はすごく楽しかったです。日本食コーナーも大きく取られていて、人気の高さを感じました。その後は、「沖縄そば」レストランが集まる、マーケットに行き衝撃を受けました。そこには他約30店舗の「沖縄そば」を扱ったレストランが並んでおり、お客さんはほとんどブラジル人。話を聴くと、価格もお手頃なので、小腹が空いた時のおやつ感覚でブラジル人もよく食べるとの事でした。ここでも県民移民の影響力の大きさを感じました。
夜は山内夫妻と一緒に、老舗の中華レストランに行き、色んなお話を聴く事が出来ました。

1/25(木) カンポグランデ　4日目

カンポグランデ4日目。午前中は各家族の皆さんとゆっくり過ごし、午後はカンポグランデで一番大きなショッピングモールの見学へ。
夜は「県人会主催」の歓迎会に参加させてもらいました。100人近くの県系移民の皆様が集まってくれて、色んな人の話を聴く事が出来ました。カンポグランデは恩納村出身者は少ないですが、多くのうちなーんちゅが生活しております。特に名護や読谷出身の方が多く、皆さん工ネルギッシュで多くの刺激をいただきました。
日本の裏側でも宴会は「かぎやで風」で始まり「唐船ドーイ」で終わる沖縄式。沖縄式の「おもてなし」を沢山貰った楽しい夜でした。

1/26(金) カンポグランデ　5日目

カンポグランデ5日目。午後から「山内盛光 (恩納村出身者)さん」のご家族と面会にいきました。盛光さんは昨年お亡くなりになられたのですが、ずっと恩納村や沖縄県との交流事業のパイプ役をされていたお方で、私たちは仏壇に線香をあげにお邪魔させていただきました。娘さんやお孫さんから盛光さんの話を聴き、真面目で勉強熱心の人柄を強く感じました。
その後は、昨夜の歓迎会でお会いした3世の方々に誘われて、カフェへ。私たちと同年代ぐらい皆様と一緒に楽しくお互いの話をお喋り。一人の女の子は昨年、沖縄へ「自分のルーツ」を探しに旅行に行ったとの事で、沖縄から感化される事もかなり多かったとの事でした。3世の方々は皆さん、まだ見ぬ自分のルーツのある沖縄に興味津々で沢山の質問を受けました。その度、私自身勉強不足な事が多く反省しました。戻ったら「沖縄の事」を今一度学び直したいです。
夜は源河さんのお家でブラジル式BBQを楽しみました。

《ロンドリーナ滞在》

1/27(土) ロンドリーナ1日目

ロンドリーナ1日目。早朝にカンポグランデの皆さんに空港まで送ってもらい、カンポグランデを後にしました。早朝にも関わらず、沢山の皆様が見送りにきてくれました。
ロンドリーナの空港に着くと、恩納村元研修生「国吉プリシーラ」さん夫妻、名嘉真さん夫妻が迎えに来てくれていました。ロンドリーナでの滞在先は、名嘉真さん夫婦のお宅にお邪魔させていただきました。少し休息を取った後に、夜は近くのピザレストランへ。ブラジルは週末の夕食が遅いらしく、21時以降からの時間帯からお店がいっぱいになっておりました。夕飯の時間が遅く「夜が長い文化」はすごく沖縄に似ているところだと感じました。今日から6日間、名嘉真さんのお家にお世話になります。

1/28(日) ロンドリーナ　2日目

ロンドリーナ2日目。早朝から、移動市場「フェーラ」を見学。サントスのフェーラと

同じ様に、市場は新鮮な農作物や卵、お肉が販売されていて、「人と人」との距離感が近く、「買い物するだけの場所」ではなく、ブラジルの人たちにとって「社交場」のような場所でした。
実際に、名嘉真さんも沢山の知人に話し掛けられていて、沖縄や日本には「人と人との近さ」を感じました。また、ロンドリーナのフェーラでも「パステオ」は人気で、ここでも日系の人たちがパステオを販売しておりました。
昼食は「ロンドリーナ恩納村出身者県人会」の皆様が私たちの為に、歓迎会を開いてくれました。元恩納村研修生プリシーラさんを中心に会は進められ、多くの村出身者と交流する事が出来ました。ロンドリーナは恩納村「安富祖」や「名嘉真」「喜瀬武原」出身の方が多かったです。歴史もボリビアと比べると長いため、故郷を知らない2世以降の人達は多かったです。その為、「恩納村」に関しても質問も多く、皆さん遠くても故郷をいつも想っているのだと感じました。
その後プリシーラさんの実家にお邪魔し、プリシーラさん祖父母と面会。お祖父ちゃんやお婆ちゃんにしか分からない貴重なお話をお聴きする事が出来ました。
夜はプリシーラさん家族と一緒に、ブラジルの若者が集まるレストランへ行きました。色んな人にお会いした1日でした。

1/29(月) ロンドリーナ3日目

ロンドリーナ3日目。午前中は、名嘉真さんが開業した歯医者さんを見学。現在は、息子さんに譲り第一線を外れているが、70歳まで現役で仕事をしていたとの事でした。名嘉真さんの歯医者さんは特に子どもに特化した歯医者さんで、子どもを安心させる為の、工夫が色んな所で見られました。昼食は名嘉真さん宅で「バター焼き」と呼ばれる、ブラジル風の焼き肉を家族みんなで楽しみ、その後は村出身2世荻堂さんが営む「オーガニックショップ」を視察。日本でも流行っている「グルテンフリー」の商品を多く取り扱っておりました。最近ブラジルでも食生活の見直し重要視されており、健康食品を扱ったこのようなショップが増えているとの事でした。
その後は、「州立ロンドリーナ大学」を見学した後、夜は名嘉真さんの息子さん、娘さん家族と会食。現在、名嘉真さんの長男リカルドさんが病院の院長をしており色んなお話を聴く事が出来ました。個人的に印象深かったのは、リカルドさんの小学生の息子さん達が綺麗な英語を喋っていた事。3-4世の子ども達の教育水準はブラジルの中でも抜群に高く、日系移民の人たちの教育熱の高さを感じました。

1/30(火) ロンドリーナ4日目

ロンドリーナ4日目。早朝から県系移民「仲程さん」が経営する八百屋を視察後、同じく県系移民の「田畑さん」が経営するレストランで昼食をご馳走になりました。
ブラジルのレストランは「バイキング形式」で最後に、はかりで重さを量り、料金を出す形式のレストランが結構多い。田畑さんのレストランもこのスタイルで、バイキング料理の中には、ゴーヤーの和え物や天ぷら等、沖縄の料理や日本の料理が組み込まれていて、ブラジル人にも大人気のレストランでした。
その後は、恩納村安富祖出身の「荻堂絹さん」のお宅にお邪魔させてもらいました。絹さんは、恩納村から送られてくる広報誌をいつも楽しみにしていて、それを毎号熟読しておりました。
「どこの字でどんな事があったのか？」「恩納村がどんな風に変わっているのか？」をいつも楽しみにしている！という言葉が私は印象深く、遠くブラジルから故郷を想う気持ちが本当に強く伝わりました。
その後は、「移民100周年記念公園」の見学や「ブラジルダンス」の見学を行い、夜はブラジル移民3世の方々とディナーを楽しみました。
日系3世以降の方々は英語も上手ですごく刺激を受けました。

1/31(水) ロンドリーナ　5日目

ロンドリーナ5日目。プリシーラさんと昼食後「パラナ州日本移民資料館」へ。ロンドリーナも含めた、パラナ州に移民の人達がどうやった背景できて、どのように土地を開拓していったのか？実際に昔使っていた農具等を見ながら、説明してくれました。その後は、プリシーラさんが勤めている「ロンドリーナ市議会議場」や「ロンドリーナ市役所」を訪問させてもらい行政で働いている人達を見学させてもらいました。
その後は日本資本の学校「MEGUMI学園」の授業風景を見学。
夜は、日系バレーボールチーム「友情」の練習に参加させて貰い、スポーツを通して交流を行いました。
日系人だけではなく、現地のブラジル人ともバレーボールを通して交流出来た事は非常に貴重な体験でした。

2/1(木) ロンドリーナ　6日目

ロンドリーナ6日目。昼食は名嘉真さん夫妻と一緒にブラジル式BBQ「シュラスコ」を食べにいきました。
午後からは、ロンドリーナ市内から約100キロ程離れたコーヒー農園を見に行きました。そこではスイス系移民のオーナーさんが細かくコーヒー農業の歴史や生産過程を説明してくれました。
名嘉真さんが4世のお孫さんも一緒に連れてきていたのですが、コーヒー農園を見ながら「一世移民の苦労した歴史の話」をしっかりと4世の代まで伝えていた事がすごく印象的で、豊かになった今、歴史の話や苦労話を伝えていくのは本当に重要な事だな。と強く感じました。
これは私も含め、沖縄が全然出来ていない事だと思い見習いたいと想いました。
夜はプリシーラさん中心に沖縄3世の若者たちが送別会を開いてくれて、楽しい最後の夜を過ごす事が出来ました。

《サンパウロ滞在》

2/2(金) サンパウロ　1日目

サンパウロ１日目。早朝、ロンドリーナでお世話になった皆さんに空港で見送りを受け、私たちはサンパウロに戻りました。
サンパウロの空港では、真栄城徳平さん、棚原国雄さんが迎えに来てくれました。そのままサンパウロ市内の東洋街に向かい昼食を済ませ「ブラジル沖縄県人会本部」に挨拶に向かいました。移民の歴史を後世に残そうと、役員の皆さんは必死に文献に残す作業を行っておりました。県人会では移民に関しての資料を多く貰い、勉強になりました。その後に、本日お世話になる真栄城徳平さんのお家にお邪魔しました。サンパウロから約４０キロ程離れた郊外の街で、真栄城さんは日本食材中心のスーパーを経営しておりました。市内を真栄城さんと散策後、真栄城さんの３女トモミさんと一緒に真栄城家で夕飯をいただきました。ボリビアからブラジルに移った時の話。県人会の繋がりの話等、真栄城さんのお話はすごく為になる事が多く、有意義な夕食会を過ごしました。

2/3(土) サンパウロ　2日目

サンパウロ2日目。朝から真栄城さん、棚原さんと一緒に、棚原国雄さんのお兄さん「栄一さん」が経営する鋼材店へ。ブラジルではお家の内装を自分で作る人が多く、棚原さんの家族は、お家を作る際の、部品や工具などを販売するお店を経営しています。２０名ほどの従業員も雇っていて、かなり大規模なお店の展開を行っていました。
「ブラジルは人口が２億にもいる。」その為、同じようなお店を同じような工リアでやってもどっちも繁盛していく。という言葉が私はかなり印象に残りました。
実際、棚原さん達は家族や親族でお店を横展開しており、どんどん大きくしていったとの事。ブラジルの内需の大きさをリアルに体験する事ができ、そして今後もっとブラジルの経済規模は増えていくだろうと感じました。
その後は「ブラジル日本移民資料館」に足を運び、移民の歴史を学ぶ、サンパウロのビジネス街の中心を見て回りました。ビジネス街の中心はほとんど東京と変わる事なく、ブラジル経済の発展具合を肌で体感しました。
夕食は真栄城さんのお家で、家族全員でいただき、その後は「うちなー芝居」のDVDを鑑賞しました。ほとんど言葉の分からない２～４世の方々が「うちなーグチ」を使っての「うちなー芝居」。芝居の構成も本当に面白く、本当に感動しました。特にこれを２世以降の人達が自ら企画して行っている事に私は本当に感動しました。
沖縄の伝統芸能をこれまで特にやってこなかった私は、皆さんの取り組みにすごく感化され、沖縄に戻ったら一度「沖縄の伝統文化」を勉強したいと思うようになりました。

2/4(日) サンパウロ　3日目

サンパウロ3日目。真栄城さんのお宅で朝食を終え、真栄城さんのご家族と市内へ。最初に「サッカーミュージアム」にいきました。
サッカーの歴史と一緒に、ブラジルの歴史も学べ、ブラジルにおいて「サッカーがどれだけ重要なポジションにあるのか？」を感じました。また、ミュージアムの見せ方、説明の仕方にかなり遊び心があり、日本の資料館も学ぶべきだと思いました。
その後、みんなでシュラスコを食べに行きました。その日は日曜日だった事もあり、レストランは家族連れで一杯でした。ブラジルでは日曜日は家族と過ごす事が一般的で、日曜はどこのレストランもいっぱいとの事でした。

その後に、モールやディスカウントストアを訪問。真栄城さんの話によると、大型のディスカウントストアが出来てから、個人経営の中規模の商店は運営が難しくなってきているとの事。その為、真栄城さんの経営するスーパーは他で売っていない「日本食」に専門性を持たせ、差別化を図っていったとの事でした。
真栄城さんの話はすごく興味深い話が多く、かなり勉強になりました。
夜は「恩納村出身の皆さん」が歓迎会を開いてくれて、多くの村出身者とお話をする事が出来ました。そこには、うちなーんちゅはもちろんですが、現地のブラジル人と結婚している方も多く、現地の人達も参加。
最後のカラオケでは沖縄の音楽、ブラジルの音楽、さらに英語の音楽と、色んな物事をごっちゃまぜな空間が何か「沖縄らしいな～！」と思い、また沖縄の良い所を沢山発見できた夜でした。

2/5 (月) イグアスの滝　1日目

サンパウロ４日目。今日は津嘉山敏夫さんのご厚意で「イグアスの滝」まで行ける事になりました。サンパウロから飛行機で2時間。アルゼンチンとパラグアイの国境に位置するイグアスの滝。イグアスの滝までは空港からレンタカーを借りて移動。レンタカーのレンタルがすごくスムーズで好印象でした。
イグアスの滝はもちろん凄い。の一言に尽きたのですが、観光業に携わっている身としては「見せ方・売り方」に感動しました。
色んな価格帯のコースが用意されており、バリエーションにすごく幅があり、色んなお客様が楽しめるかな？と思いました。
「滝を船に乗って見上げるコース」「山の中まで体験出来るコース」「通常のコース」と色んなコースが用意されており、沖縄の観光地も学ぶべき点が多いな。と感じました。自然の世界遺産はどこにいっても、すごく感動します。その中でも、私はイグアスの滝は今まで見た中で断トツ一番好きな自然遺産でした。
ここまで連れてきてくれた敏夫さんには本当に感謝です。

2/6 (火) サントス　1日目

サントス１日目。久しぶりにサントスに戻ってきました。最初に訪れた街なので、

不思議と「帰ってきた。」という気持ちにさせてくれます。きっと海の近い港町だからかもしれません。やっぱりうちなーんちゅには海が不可欠です。
その日は移動の疲れもあり、1日ゆっくり過ごしました。ショッピングセンターでお土産等の準備をし、夜は敏夫さんとキヨウ子さんの話を聴きながら夕食を楽しみました。お二人の話を聴いていると「本当に色んな事を乗り越えてきた。」んだな。と毎回感動します。お二人だけではなくここで出会う「うちなーんちゅ」は苦労と努力の量が圧倒的に違います。そういうお話聴く事だけでも、南米に研修にこれて良かったと思います。
その中でも、一番「ハングリー精神」が圧倒的に違うな。と感じる事が多々あります。私も負けないように戻ったら自分の情熱に従って一生懸命生きようと思います。

2/7 (水) サントス　2日目

サントス2日目。朝からキヨウコさんと一緒にフェーラ(移動市場)へ。サントスのフェーラはいつ来ても本当に活気がある。キヨウコさんと一緒にフェーラで買い物をし、その後はキヨウコさんの妹さんの住むマンションへお邪魔させて貰いました。妹さん夫婦も何十年もフェーラでパステオ(ブラジル風天ぷら)販売をしていて、やっとこの引退したばっかりとの事でした。
「まだたまに朝の4時に目が覚める。」「パステオの夢を見る。」等、冗談を交ぜながらお話する姿に本当に強さを感じました。
その後、ビーチ沿いを散策し、午後は敏夫さんと一緒に市内観光。
ケーブルカーに乗ってサントス市内の展望台へ行き、敏夫さんが細かく街の歴史を説明してくれました。
その後は、ブラジルのお墓を見学し、夜はカーニバルの練習風景を見に行きました。夜は津嘉山家全員集合の「送迎会」を開いてくれました。津嘉山家の皆さんは本当に仲が良く、家族の絆が本当に強いんだろうな。と多々思う事があります。家族全員で「パステオ作り」から始まり、どんどんビジネスを大きくしていった事、豊かになる為にみんなで力を合わせて頑張った事が、この家族の絆に表れているんだろうな。と思いました。
津嘉山家の皆さん本当にお世話になりました。

2/8(木) サントス　4日目

サントス滞在4日目。その日はゆっくり起き、荷造りを行いました。キョウコさんと一緒にスーパーに行き、お土産を買い、お家に戻るとキョウコさん特製のパステオを作ってくれました。夕方頃、サントスを出て空港に向かいました。空港には敏夫さんの弟の則夫さんも一緒に送りにきてくれました。サンパウロの空港では棚原国雄さん夫妻も見送りにきてくれました。最後の最後まで、ブラジルコーヒーを飲みながらみんなでブラジルの滞在を振り返り、皆さんゲートのギリギリまで送ってくれました。本当に人の温かさに触れた海外研修でした。
「イチャリバチヨーディ！」、旅中で何度も言われたこの言葉。
南米に行くまでは、私はこの言葉の本当の意味を知りませんでした。ブラジル、ボリビアで多くのウチナーンチュの皆様に出会い、いっぱい笑ってこの言葉の本当の意味を知る事が出来ました。人情に熱く、力強く生きる南米にいるうちなーんちゅの皆さん！本当に1ヶ月お世話になりました。

修 了 証

恩納村派遣第1号

山城　修吾　殿

平成29年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修修了したことをここ証します。

研　修　期　間　：　平成 30 年 1 月 9 日～平成 30 年 2 月 10 日

研　　修　　先　：　ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）・
ボリビア

平成 30 年 2 月 15 日
恩納村長　　長浜　善巳

長濱　茜

≪ブラジル滞在≫
1 月 10 日(水)　サントス 1 日目
サンパウロの空港に着くと、出口でいきなり恩納村旗が見えた。すぐ恩納村出身の方々だと分かった。津嘉山敏夫さん、弟の則夫さん、真栄城徳平さん、いま恩納村で研修に来ているアンドレさんのお父さん棚原国雄さんとお兄さんの栄一さんが出迎えてくれた。みなさんの会話がウチナーグチとポルトガル語でチャンプルーだった。敏夫さんと則夫さんと最初の目的地サントスに向かった。車窓からまず目に飛び込んできたのは、赤瓦が並んだきれいな家々に見えるファベーラと呼ばれるスラム街だった。早速、カルチャーショックを受けた。サントスで敏夫さんは不動産関係のお仕事をしていて、長男のトモヒロさんは、経理などをしている。昼食は、敏夫さんの事務所の近くの食堂に行った。敏夫さんと則夫さんは、常連客らしく、店員もかなりフレンドリーな対応で、写真を撮る時は肩を組んだりしていた。今ではブラジルの国民食のひとつになったフェジョアーダは、昔アフリカから連れてこられた奴隷が、残り物で作ったという歴史ある料理。黒い豆を使う為、見た目はあまり美味しそうには見えない。豆が苦手な私は、少し味をしてみたが、わるくなかった。今回山城さんは、敏夫さんが持っているアパートで宿泊し、私は敏夫さんのお宅でお世話になることになった。敏夫さんのお宅で、奥さんのキョウコさんと初対面した。夕食は、次女のユカリさんとレバノン系移民の旦那さんのハミーさんとビーチでチキンを食べた。そこで初めて生のココナッツジュースも飲んだが、期待していたのよりも甘くなかった。ビーチには飲み終わったココナッツが大量にバケツに入って置いてあり、いかにもブラジルという風景だった。ユカリさんは以前沖縄で 1 年間日本語を学んだといい、CA という職業柄英語も得意だった。ハミーさんはとても明るくお話し好き。初日の夜はビーチサイドで賑やかな夜だった。

1 月 11 日(木)　サントス 2 日目
朝ごはんは、移動市場へてんぷらを食べに行った。敏夫さんがてんぷらと呼んでいたのは、パイの様な生地の中にチーズやひき肉などを包んで揚げたもので、パステオの事だった。パステオ屋のオーナーのほとんどが日系人で、とても儲かるとのこと。以前は敏夫さんもパステオを作って売っていたらしい。私たちが食べたパステオは、敏夫さん(長男)の弟の操さん(四男)の経営で、奥さんと娘さんがパステオを売っていた。市場のもう一軒のパステオ屋さんは、敏夫さんの甥の経営だった。市場でパステオを売る権利は 1,500 万もするが、権利を買って 2 年ではペイ出来るとの事。みんなパステオで成功している。私が高校生の頃、沖縄市にもブラジルという名の揚げ物屋さんがあった。今思えばあればパステオだったのだと思う。市場をぬけて、サントスフットボールチームのス

タジアムへ行った。サントスチームはあの有名なペレやネイマール jr.がいたチーム。ミュージアムはたくさんのトロフィーや有名選手のユニフォーム・シューズなどがあって、興奮した。その後、操さんがパステオを作っている工場を見学に行った。操さんの息子さんと従業員の 3 名で、明日の分のパステオを作っていた。今は機械製造で、だいぶ楽になったが、以前敏夫さんは、3 時から起きてパステオを全部手作業作ったと言っていた。パステオの生地だけも需要があるといい、生地だけを巻いて売っている。昼食は、工場の近くの食堂でとった。前菜はビュッフェで、お肉を注文した。食堂の窓が開放されていてコップにハエが入ることもある。食事のあと、敏夫さんが現在作っている分譲集合住宅を見に行った。ブラジルの住居は賃貸ではなく基本分譲だという。作業員男性の服装は、短パンやノースリーブもいたりして、自由な感じだった。その後は、敏夫さんが工場を貸しているアルミリサイクル集荷場を見学。アルミ缶の回収率は 90%らしい。ビジネスマンの敏夫さんは、アルミサッシ会社にも工場を貸していて、そこにも連れて行ってもらった。以前建物を所有していたアサイー加工工場でアサイーを 2 箱ももらった。夕方はモールを見た後、ピッザリアで夕食をとった。初めて食べるブラジルのピザはとてもおいしかった。

1/12(金)　サントス 3 日目
キョウコさんの作った日本スタイルの朝食を頂いた。山城さんをピックアップし、キョウコさんがボランティアをしている厚生施設に行った。入居者の殆どが日系人で 4 人に 1 人が 90 歳以上らしい。移民 1 号を乗せた笠戸丸が着いた港が、ベランダから見えた。JICA からの介護士ジュンコさんに会った。ジュンコさんは一昨年村長と城野さんにお世話になったと言い、私たちも今回ジュンコさんに会えた事に何か縁の様なものを感じた。コーヒーミュージアムは、とても歴史があって素敵な作りだった。昔ながらのポルトガル風の建物と石畳の街を散策し、バルに寄ってスムージーを飲んだ。山城さんとビーチを散歩したが、夕方のせいかあまり人がいなかった。夕食は、敏夫さんのファミリアと豊見城出身で敏夫さんの義弟の大城さんと一緒にシュラスカリヤに行った。肉の種類が 30 種類ほどあり、ビュッフェに慣れていない私は、少し前菜を取りすぎた。最後のシナモンパインも美味しかった。敏夫さんのお婿さんのハミーさんが常に場を盛り上げていた。日本語の名前は難しいらしいが、名前を覚えてもらったのは嬉しかった。食事の途中、敏夫さんと則夫が明日からボリビアでお世話になる敏夫さんの又従兄弟津嘉山修さんに、電話をしてくれた。

《ボリビア滞在》
1/13(土)　サントス(サンパウロ)→ボリビア 1 日目

朝、敏夫さんと則夫さんと一緒に空港へ向かった。チェックインの為に、空港スタッフにカウンターを英語で尋ねると、ポルトガル語しか話せずに、さらに間違ったカウンターを教えられた。時間が迫っているなか、空港の端から端まで”ゴンゴン”なって走り回った。敏夫さんは、最初からどこのカウンターなのか知っていたらしく、きっと私たちの事を”ウフソー”だと思っただろう。無事、飛行機にも間に合い、ボリビアへ。津嘉山修さん、アツエさん夫妻と佐渡山安男さん、津嘉山昭さんが出迎えてくれた。修さんの車のハンドルには、盗難防止の器具が付いていて、日本との違いに驚いた。そのまま、カサ・デ・カンバというボリビア料理レストランへ行き昼食をとった。ワニのセビーチェを初めて食べた。おいしかった。サーバーの女の子たちがとってもかわいい民族的なボリビアンスタイルで、帽子を被って写真を撮らないかと各テーブルを回っていたので、記念にみんなで一枚。偶然にも、今日は移民地の成人式とその後沖縄角力(相撲)があるという事で、コロニア(移住地)へ向かった。コロニアの入口に”Bienvenidos a OKINAWA　めんそ〜れオキナワへ”と書かれたゲートがあり、感動した。コロニアへ向かう途中の道は、アスファルトは敷かれていなく、土の道を牛や豚が普通に歩いているのにびっくりした。第 1 移住地(通称：ダイイチ)に着くと、体育館では婦人会がバザーで沖縄そばやおにぎり、ナントゥを売っていた。見渡す限り、みなさん見た目が日本人なので、外国にいる感じがしなかった。相撲はとても小さい子から始まって、3 歳くらいの小さい子も足技をつかったりして、とてもかわいかった。修さんの息子大陽くんはとても相撲を頑張っていた。私はアツエさんと一緒に応援した。勝手に身内の気分になり、涙が出そうになった。婦人会の方の作った沖縄そばを食べた。街に戻る途中、修さんの牛を出荷している屠殺場へ寄った。作業している現地の人の頬が、口の中のコカで、はちきれんばかりに膨らんでいるのに驚いた。山城さんは、屠札場の様子の食物連鎖を目の当たりにして気分が良くなさそうだった。街の修さんのお宅に宿泊。2 人の子どもが街の学校に行くために、コロニアから街の家へ引っ越しの最中という事で、そういう状況の時にお邪魔して、なんだか悪い気がした。私は娘さんのレミちゃんのお部屋を使わせてもらった。

1 月 14 日(日)　ボリビア 2 日目

朝から雨。昭さんのマンションへ行く途中の道路の至る所に水が溜まっていた。マンションで少しおしゃべりをした後、昭さんの奥さん洋子さんの食堂で昼食を頂いた。私たちのために準備してくれたソパ・デ・マニというピーナツのスープがとても美味しかった。その後は、昭さんの畑を見に行った。いろいろな種類の果樹を作っていて、淡水魚も養っているとの事だった。昭さんの作っているモリンガのお茶を頂いた。その後、ショッピングセンターに行った。電化

製品などの韓国製品は日本製品の半額ほどだった。夕方、洋子さんをピックアップし、モールへ。モールの駐車場がすごく混んでいて、天気が悪いせいだとも思ったが、抽選でポルシェが当たるというイベントをしていたため、人が多いのに納得した。フードコートでボリビアのごはんを食べたが、イベント MC の声が大きすぎて、落ち着いてご飯を食べることが出来なかったことが残念だった。食事の終盤に以前村の研修生だったエミコさんと合流する事が出来た。また土曜日に会う約束をして、エミコさんとはわかれた。宿泊先の修さんのお宅へ戻る前に、昭さんのマンションに行って、いろいろお話を聞いた。昭さんは、最初大人しい方という印象だったが、私たちに心を開いてくれ、とても打ち解けた夜だった。

1 月 15 日(月)　ボリビア 3 日目
昨日から降っていた雨が止んでよかった。修さんとモーニングカフェで朝食を頂いた。サトウキビの皮に包まれた、マッシュコーンの様なものは初めて口にするメニューだった。朝食後、蚊に刺されまくっている私のために、修さんが蚊よけとかゆみ止めの軟膏を買ってくれた。日本からムヒを持参すべきだったと本気で思う。修さんお宅の後ろに住んでいるアツエさんのいとこのモニカさんのお宅まで散歩した。街の修さんのお宅は、住宅地エリアのゲートにガードマンがいて、セキュリティ万全で安全らしい。安男さんとコロニアに向かった。道は、アスファルト無き道で、昨日の雨のせいで結構水溜まりができていた。今日からの二日間は第 2 移住地(通称 : ダイニ)の真栄城一夫さんのお宅にお世話になる。昼食は、ウチナーンチュが営んでいるこじんまりした雰囲気のイイ感じの食堂で食べた。一夫さんのお宅に着くと、一夫さん、娘の七海ちゃんと萌ちゃんがいた。一夫さんの奥さんと小さい息子さんは日本に行っていて不在ということだった。リビングでいろいろお話をしていると、一夫さんの弟の健さんの娘さんと一夫さんのお母さんの節子さんがやって来た。私たちの来訪にとても興奮した様子で、20 年以上も前の恩納村の冊子を今でも大事に持っていて、それを私たちに嬉しそうに見せた。故郷への愛を感じた。安男さんの畑を見に行った。いつもは畑に水を入れているのに、今年は雨が多くて大変だと言っていた。一面大豆畑で規模の大きさにびっくりした。その後見に行ったデオグランデ川は、とても大きく、雨のせいか川の流れが速かったが、釣りをしている現地の人が何人かいた。安男さんが所有している農耕機械が保管されているところにも連れて行ってもらった。中には小さな家が買えるほどの高価機械ものもあった。機械はコンピュータ化され、夜使用人がときどき勝手に機械を動かしているのが次の朝に分かると言っていたのが面白かった。夕食の BBQ には、一夫さんのお兄さんの豊さん・真由美さん夫婦、修さんの甥の津嘉山慎悟さん、

安男さんと息子の安一くんと娘のエミリちゃんも集合して、とても賑やかなBBQ だった。初めて鹿のさしみとアルマジロを食べた。安男さんは、畑でときどきアルマジロを狩るらしく、ボリビアはワイルドだと思った。みなさんの会話が 3 か国語（ウチナーグチ・日本語・スペイン語）で飛び交って、とても異文化を感じた。みなさんお酒がとても強く、宴は夜分遅くまで続いた。

1 月 16 日(火)　ボリビア 4 日目
七海ちゃんと萌ちゃんが準備してくれた朝食を頂いた後、名護出身の安里さんの養豚場に連れて行ってもらった。養豚場では、7,400 頭の豚が年齢ごとに飼育されていた。特に子豚がとてもかわいかった。お昼は、昨日行った食堂で村人会の新年会と私たちの歓迎会を開いてくれた。最初に村人会会長の安男さんの挨拶に始まり、会計の修さんから今年の決算報告があった。私たちも自己紹介をし、鱒のさしみやラフテー、やきそばなどを頂いた。小さい子どもたちがとても流暢に日本を話しているのに感動した。会の後に、修さんとアツエさんの実家にお邪魔した。アツエさん(旧姓：玉城)のご両親は糸満出身という事で、その訛りが私の母方の亡くなった祖母を思い出させて、とても懐かしかった。アツエさんのご両親が移民してきた時に使用したというパスポートも見せてもらった。とても大事にしていて、まだきれいなままだった。ウチナーンチュのユウスケさんの酪農牧場にも行った。そこで、初めて乗馬体験をした。少し怖かったので、すぐに降りたが、山城さんはしばらく乗馬を楽しんでいた。ボリビアでは、牛乳より水の方が高いらしい。現地の使用人の家族が牧場内で生活をしていて、私が子どもたちにカメラを向けるとみんな笑顔を見せてくれた。日本の子どもが見せない笑顔だった。子どもは国籍・人種関係なく、とてもかわいい。その後、日本語学校見学。2016 年に 30 周年を迎え、その時の DVD を一夫さんが手配してくれた。学校見学の後、安男さんのお母さんに会いに行った。佐渡山秀さん御年 100 歳。温厚な性格で、自分の事はなんでも自分できるらしくとてもお元気。今日は十六日(ジューロクニチー)という事で、安男さんのお兄さんとお姉さんにもお会いでき、三枚肉に昆布、豆腐などを出してくれた。ボリビアで、ウチナーを感じた。アツエさんのお姉さんの商店は、品物が充実していて、そうめんも売っているのに、感動した。一夫さんの弟の健さんとお母さんの初子さん宅で夕食。肉続きの食事が多かったので、マンジョウカの素揚げと冷やしそうめんの夕食は、嬉しかった。マンジョウカは見た目がじゃがいもに似ているが、少し歯ごたえがあって、おいしい。夕食後は、青年会館で、ウチナー移民の成人・青年のみなさんとビリヤードをして交流した。青年会館は、最近青年会がパーティーをしたという事で、パーティーの余韻がたくさん残っていた。金武町の研修で、最近まで沖縄に行っていたという知花アユムく

んが、恩納村の研修生のアンドレさんが歌が上手い事を知っていたのに、驚いた。アユムくんとエルネストくんが、星がたくさん見えるところに連れて行ってくれた。とてもきれいだった。

1 月 17 日(水)　ボリビア 5 日目
今日も七海ちゃんと萌ちゃんが準備してくれた朝食を頂いた後、修さんの甥にあたる津嘉山慎悟さん宅へ移動。一夫さんのお宅で最後に記念写真を撮った時、とても寂しい気分になった。津嘉山慎悟さん宅に到着すると、お母さんの美智子さんが迎えてくれて、早速、お昼ご飯を準備してくれていた。美智子さんは一人で住んでいて、慎悟さんは隣に住んでいた。美智子さんは、とても料理が得意で、たくさんのおかずを出してくれた。フィリピンから帰り、すぐこの研修に参加した山城さんは美智子さん日本料理にとても興奮していた。美智子さんと安男さんの会話は 100%ウチナーグチで、感動した。ボリビアでウチナーグチをマスターしたいと心から思った。ご飯のあと、2 時間くらいかけて洗濯をした。洗濯は日本と比べてとても時間がかかる。(日本の洗濯は 30 分ほど）慎悟さんの妹さんの梢さんは、以前村の研修生だったという事で、梢さんの報告書や当時の写真を見せてもらった。慎悟さんの大豆畑に連れて行ってもらった時、小さい野生のワニを見て、テンションが上がった。その後、修さんの牧場で、たくさんの牛に凝視されたのは、おもしろかった。牧場のゲートに息子さんの名前の”TAIYO”と書かれていて、将来はおそらく大陽くんのものになるのだろう。夕ご飯は、さしみとゴーヤチャンプルーと中身汁で、まさかボリビアで中身汁を食べられるなんて思ってもいなかった。ご飯のあと、YouTube で沖縄の歌を聴きながら、慎悟さんがツルミ(鶴見)へ出稼ぎに行っていた時の話などを聞いた。

1 月 18 日(木)　ボリビア 6 日目
美智子さんが、朝ごはんにリクエストをしていた中身汁をだしてくれた。朝食べてもやっぱり美味しかった。グーグルマップを見ながら、南恩納の親戚のお家を探して、親戚の話を聞いた。しばらく沖縄に行っていないのに、とても記憶が鮮明なのに驚いた。お昼は、慎悟さんと安男さんとダイイチに移動し、ウチナーンチュが経営する比嘉食堂で、ビーフヌードルスープのソパ・デ・フィデオを食べた。昼食の後、ボリビアで一番大きい橋、デオグランデ川に架かかる新しい橋を渡った。CAICO の担当の方に、15,000 トン貯蔵できるサイロ(農作物貯蔵タンク)を案内してもらい、中にも入った。そして隣のパスタ工場にも見学に行った。安男さんたちが”ソーメン”と言っていたのは、パスタの事だった。ウチナーンチュが作った小麦で作るそのパスタのパッケージには”OKINAWA”と書いてあり、とても誇りに思った。とてもいろんな種類のパスタがあり、とて

も小さい物が珍しかったので、お土産にいくつか買った。資料館に行く前にダイイチのゲートボール場で 90 歳の真栄城徳治さんにご挨拶をした。ベンツの SUV に乗るイケイケな方だ。オキナワ・ボリビア歴史資料館は以前研修生だった真栄城弥生さん(弥生さんは豊さんの長女＝一夫さんの姪)にアテンドしてもらった。移住してきた際にもらった土地(ジャングル)を開拓するために使用した斧や大きいのこぎり、沖縄から持ってきた家具などがたくさんあった。修さんが寄付したという、お皿もあった。弥生さんの妹の茜さんが県費研修生として沖縄にいるという事で、沖縄に帰ったら茜さんとも是非会おう。うちに帰ると、美智子さんが得意の腕を振るってたくさんのおかずを作っていた。「これはあんたのタマシだよ」と言って、私は餃子担当になっていた。たくさん頂いてお腹がいっぱいになったが、締めの美智子さんの沖縄そばはとてもおいしかった。料理上手なお母さんがいるのに外食好きな慎悟さんは、もったいないと思った。

1 月 19 日(金)　ボリビア 7 日目
美智子さんが用意してくれた朝ご飯を食べ、荷造りをして、美智子さんにさよならをした。寂しい気分になった。美智子さんは、街に行ったら、娘の梢さんに会ったらよいと言った。慎悟さんとダイイチの渡久地さん宅へ向かった。渡久地さん宅では、長男のリョウくんが迎えてくれた。リョウくんのお母さんのハルミさんと、JICA からの派遣で教師をしている伊波さとこ先生が買い物から帰ってきて、一緒に冷やしそうめんと餃子を頂いた。ブラジルでは、餃子はポピュラーなメニューのひとつらしい。昼食の後、リョウくんとさとこ先生と一緒に真栄城徳治さんのお宅へ行った。徳治さんの奥さんは、日系ブラジル人で、娘ベティさんの紹介で結婚した話は、素敵だと思った。渡久地家へ戻ると、お父さんの政得さんと三男のダンくんが畑から帰ってきていた。釣り堀に釣りに行く事にした。熱田さんが経営する釣り堀は、同じく熱田さんが経営するゴルフ場と隣り合わせで、ある意味非常にスリリングで、私も危うくゴルフボールが当たりそうになった。淡水魚を 2 匹釣り、釣った魚をさばいてもらって嬉しかった。帰路は、政得さんがウチナーンチュのアイデンティティについての話を聞きながらの、車窓からの夕日と大自然がとても綺麗で感動した。渡久地家では、ハルミさんが夕食の準備をしていた。釣ってきた魚と、チキンを食べて、先ほどの熱田さんのカラオケにみんなで行った。長男リョウくんと次男ケンくんは、私も山城さんも知らない日本の歌を歌っていて、ツウだなと思った。三男ダンくんは"Despacito"を 3 回も歌っていて、"Shaky Shaky"は手の振りもしながら踊っていた。渡久地家の男の子たちは、私より日本が上手いと思う。ハルミさんもノリノリで、一緒に踊ったりした。とてもラテンな夜だった。

1 月 20 日(土)　ボリビア 8 日目
朝起きると、相部屋をしていた、さとこ先生はもう既に起きていた。ハルミさんの作ったチーズケーキを朝ごはんに頂き、渡久地家のみなさんと記念写真を撮って、街へ向かった。政得さんは、朝早くからは畑へ行っていて、朝会えなかったのが残念だった。街に向かう車中、ハルミさんに、子ども達は日系人と結婚してほしいですか。と聞いたら、出来たら日系人(ウチナーンチュの意味が強い様に感じた)が良いと言っていた。美智子やさんアツエさんも同じ様な事を言っていた。やっぱり同じ言語や文化や習慣で育った方が、分かり合えると思うと。恋愛は個々の自由だが、彼女達の考えや思いに共感する。街に戻り、修さん一家とアツエさんのいとこのサトシさんと、人気店の日本食レストランで昼食をとった。その後、修さんとアツエさんと民芸品店巡りして、私は念願の開運のお守りエケコをゲットする事が出来た。アツエさんがボリビアのお土産を買ってくれた。とてもお世話になっているので、なんだか悪い気がした。街を散策し、一番大きなカトリックの教会にも行った。教会の上からは街が一望できとてもきれいだった。古くからの常連さんが多く、前の大統領夫人も常連のお客さんという、アツエさんのおばさん(サトシさんのお母さん)が経営するヘアサロンも見せてもらった。約束していたエミコさんにも会う事ができ、預かっていたお土産も渡すことができた。逆に私たちにもお土産をくれた。エミコさんと再会後、モールで夕食をとり、サトシさんとお友だちショウジさんと、夜の街へ繰り出した。カナバル(カーニバル)直前で、街が賑わっていて、テンションが上がった。おしゃれなレストランバーに連れて行ってくれた。サトシさんはやさしくて、ショウジさんはおもしろかった。ボリビア最後の日に夜の街の雰囲気が味わえて嬉しかった。手配してくれたアツエさんに感謝。

1 月 21 日　ボリビア 9 日目→サントス
朝食を修さん宅で頂き、津嘉山美智子さんの娘さん・慎悟さんの妹の梢さんが会いに来てくれた。美智子さんから梢さんの事を聞いていたので、会えて良かった。修さん一家と一緒に空港に向かった。空港には、慎悟さん、安男さんと双子の娘さん、昭さんも来てくれた。みんなでお茶をして、最後に記念写真を撮った。ゲートに入る前から、とても寂しい気分になり、涙が出た。もっとちゃんとお礼が言いたかった。人と出会うのはとても好きだけど、分かれる時にはとてもつらいものだ。出会いと別れはいつもセット。ボリビアのみなさんに大変お世話になった事は忘れない。サンパウロに着いたが、空港の Wi-Fi が弱く、敏夫さんのお婿さんのハミーさんと連絡して合流するのに 1 時間もかかった。敏夫さんもハミーさんもとても久しぶりな感じがした。敏夫さんが経営するパーティー会場で、津嘉山家の知り合いの日系人の一歳赤ちゃんの誕生日パーテ

ィーで夕食をした。ブラジルは一歳の誕生日は盛大にするらしい。沖縄も一歳の誕生日は大きめにするが、ブラジルは桁違いだった。パーティーが終わり、ハミーさんがどうしても誰かに歌って欲しいとのリクエストに、敏夫さんと則夫さんが一曲歌った。2 人とも上手かった。

1 月 22 日(月)　サントス→カンポグランデ 1 日目
6 時にサントスを出て、空港に行く途中のサービスエリアで朝食をとった。空港に行く道中は朝の通勤ラッシュで混雑していて敏夫さんは少し焦ったかもしれない。カンポグランデの空港では、お世話になると聞いていた山内幸秀さんの奥さんのヨシコさんとお孫さんのマリーちゃん、県人会婦人会長の源河君枝さん、県人会長の金城さん一家が出迎えてくれた。山城さんは山内さんのお宅に、私は君枝さんのお宅にお世話になる事になった。食べ放題か、料理の重さを計って値段を払うシステムのバイキング式レストランで昼食をとった。君枝さんのお姉さんのミエコさんは、村出身の山内盛光さんの奥さん。君枝さんは名護出身の 2 世で県人会の婦人会長を 11 年も務めていて、一家で沖縄そばの製麺所を営んでいる。ここカンポグランデは沖縄そばがポピュラーらしく、市内に 80 店舗ほどあるらしい。2014 年にサン食品の職員が、君枝さんのそば製麺所に調査に来た沖縄タイムスの記事をみせてくれた。感心した。昼食後、一度君枝さんのお宅へチェックインし、洗濯をした。君枝さん洗濯機は、洗濯と脱水機が別々で、すすぎを手でやるスタイル。初体験だったので、楽しそうですごくやってみたかったが、全部君枝さんがやってくれた。その後、カンポグランデの県人会館へ行くと、青年たちがバレーボールをして楽しんでいた。高校時代バレー部だったという山城さんも仲間に入って交流していた。婦人会のみなさんは、琉舞の練習しているグループと手芸をしているグループがあり、踊りの練習に、私も飛び入り参加したかったが、邪魔になりそうなのでやめておいた。県人会館のあと、ウォールマートに行った。一部の売り場で電気が突然消えたのに、みんな普通にしていたのに驚いた。おそらくブレーカーが落ちたのだと思うが、日常的に起こるのだと推測した。ウォールマートで君枝さんは壊れた代わりの新しい電話をゲットし、その後、肉屋さんと野菜屋さんに寄って帰宅した。今夜は、山城さんたちも君枝さん宅へ集合して君枝さんたちが作った麺で沖縄そばをみんなで夕食に頂いた。とても美味しかった。

1 月 23 日(火)　カンポグランデ 2 日目
ブラジルの朝食は、シンプルにフランスパンにハムとチーズを挟んで食べるのが定番らしい。君枝さんのそば工場を見せてもらった。そば工場には、君枝さんの長男のケンジさんと奥さん、長女のサユリさん、次女のカズミさんとその

長男が働いている。毎朝 7 時から働いて、お昼には業務終了で、土日も休まずそばを作っているらしい。それだけ需要があるという事だと思う。お昼は、君枝さんがストックしているヒージャーを頂いた。午後は山内幸秀さんヨシコさん夫婦と市場に行った。肉や魚などの食料品はもちろん、ウェスタンブーツや牛の角のマテ茶カップなど珍しいものが売られていた。パステオとグァラナ(炭酸ジュース)をおやつにし、市民公園へ行った。市民公園ではウォーキングしている人やランニングしている人が多かった。ブラジル人は太っているから、みんな運動をしているとヨシコさんが言っていたのがおもしろかった。市民公園で天然のカピパラを初めて見たが、あまりかわいくなかった。公園の帰り、村出身の石川盛得さんのお宅にお邪魔した。ご本人はもう亡くなっていて、ご家族と面会した。移住して、ブラジルの発展に尽くしたという事で、昭和 63 年に宇野外務大臣と平成２年に海部内閣総理大臣からもらった賞状が飾られていた。夕食の前に、山城さんと街を散歩した。バルで会ったブラジル人に、沖縄から来たと言うと、沖縄そば！と叫び週に 2 回沖縄そばを食べると言った。沖縄そばを誇りに思った。夕食は、君枝さんやヨシコさんが行きつけのカラオケに行った。食堂にステージがあり、そこで選んだ曲を歌うスタイルだった。みなさん歌が上手かった。カラオケ屋の沖縄そばより君枝さんが作ったそばの方が断然数倍もおいしかった。もしかしたら、カラオケ屋のそばがブラジル人仕様の沖縄そばかもしれないと思った。

1 月 24 日(水)　カンポグランデ 3 日目

ブラジリアンな朝食を頂いて、ヨシコさんのいとこの比嘉マサシゲさんのお宅にお邪魔した。マサシゲさんは、日本への出稼ぎで単身赴任を何十年もしていたらしい。永住権が無くなってしまうため、2 年おきに帰って来ていたという。家族への愛を感じた。マサシゲさんもヨシコさんと同じく 1 世で、移民で来た時の苦労話をしていて、移民してきた人たちは騙されたと思った人も少なくなかったと話していた。幸秀さんが以前たくさん野菜を作っていたという(畑)土地を見せてもらった。土地開発で全部売ったのだという。昼食は、山内家でヨシコさんが用意してくれた。筑前煮がとても日本人的だと思った。なんでも大量に売られているスーパーマーケットに買い物に行った。少し圧倒されながらも、海外のスーパーは楽しい。キャッシャーが座ってレジ打ちをして、基本お客さんが袋詰めをするのが、ブラジリアンスタイル。買い物の後、大きなアーケードのようなスペースに店舗が左右に向き合っている市場に寄った。ほぼ全ての店舗で沖縄そばが売られていて、沖縄そばが一押しメニューな存在だった。残念ながら、試食する事は出来なかったが、そばの美味しそうなにおいがした。店舗のオーナーは、殆どがウチナーンチュらしく、活躍するウチナーンチュを

誇りに思った。夕食は、老舗の中華レストランへ行った。日本のあんかけ焼きそばの様なブラジルのやきそばを食べた。幸秀さんが昔常連だったというこのレストランは、日系人がオーナーで、いまは二代目のオーナーという事だった。

1 月 25 日(木)　カンポグランデ 4 日目
君枝さんは沖縄のお菓子作りも得意で、よく注文が入るらしく、今朝も 3 時から起きて、饅頭と餅を作ったと言っていた。すごくパワフルで尊敬する。君枝さんの孫のジュリアちゃんとマイテちゃん(どちらも 12 歳)ともだいぶ仲良くなって、Google 翻訳を使って、好きな歌手や俳優について話をしたりした。私はラテン音楽が好きで、よく聞いているので、話が合ってよかった。君枝さんの次女のカズミさんが私の髪を巻いてくれた。お昼ご飯は、シブイの汁とジューシーだった。君枝さんのレパートリーはとても沖縄チックだと感じる。午後は、モールに行った。時々プロモーションといって激安セールをしていて、10 ヘアル(350 円。おそらく日本では 2,500 円くらいの値段)になったサンダルをゲット出来て、とてもラッキーだった。夕方は、県人会主催の歓迎会へ行った。婦人会長の君枝さんと開会よりも早めに行って、いろいろ手配しているのを見させてもらった。みなさんとてもウェルカムで、受付の近くにいた私にたくさんの人たちが話しかけてくれた。とっても歓迎された気分になった。歓迎会は、会長さんたちの挨拶のあとに、私たちの自己紹介、余興などがあった。余興はカンポグランデで三線を教えているブラジル人の演奏で、沖縄の芸能がブラジルでも、盛んだった。カラオケを披露することになって、山城さんと一緒に歌った。父の友人の幼馴染という方にも偶然会って、巡り合わせだなと思った。最後はカチャーシーで締めくくった。閉会後も君枝さんは最後まで残り、婦人会長の役目をばっちり務めていた。婦人会長を 11 年もしている君枝さんは、とてもすごい。

1 月 26 日(金)　カンポグランデ 5 日目
君枝さんは今日も 3 時から起きて、注文を受けたサーターアンダギーを作ったらしい。ニーブヤーの私からするととても羨ましいことだ。朝食にサーターアンダギーをひとつ頂いた。君枝さんの孫のジュリアちゃん(12 歳、長男ケンジさんの娘)から手紙をもらった。日本語が話せないし、書けないのに、昨晩 12 時までかかって書いたという手紙をもらった時には涙がこぼれた。マイテちゃん(12 歳、次女カズミさんの娘)からもコレクションしているというドーナツの消しゴムをもらい、エンヒくん(6 歳、長女サユリさんの息子)からは小さいぬいぐるみをもらった。とても嬉しかった。私が明日までしかいないことをさみしく思っているらしかった。プレゼントのお返しにトートバッグをあげたら、喜ん

でいた。昼食は、ボロボロジューシーとゴーヤチャンプルー、たーんむを準備してくれた。ここに来て、沖縄にいる時よりも沖縄っぽいものを食べている気がした。村出身の山内盛光さんが生前住んでいたお宅にお邪魔した。今は誰も住んでいないが、おうちも、盛光さんの部屋も、ずっとそのままにしてあるらしい。趣味だったというカラオケや世界のウンナンチュ大会で来村した時の写真なども見せてもらい、お仏壇に手を合わせた。昨日の歓迎会で山城さんが友達になった日系人 3 世のアドリアナさんは、去年沖縄に遊びに行ったと言い、私と共通の知り合いがいた事にはびっくりだった。運命？必然？私は、いわゆる沖縄の祖先崇拝の信者だが、出会うべくして出会うというのを強く信じているので、全ての出会いには意味があると改めて思った。君枝さんが、“キモチ”と言って山城さんと私にカンポグランデのＴシャツをくれた。カンポグランデ最後の夜は、君枝さんのお宅で君枝さんの家族もみんな集まった。長男のケンジさんが焼いたシュラスコと長女のサユリさんが作ったラザニアはとてもおいしかった。君枝さんの次女のカズミさんが二日で編んだと手編みのマットをもらった。下に敷くには可愛すぎるので、帰ったら用途が考えよう。君枝さんファミリーにはとても良くして頂いた。とても感謝。明日は朝が早いため、みんなとは今日までと思うと、記念撮影をしている時とてもさみしくなった。

1 月 27 日(土)　カンポグランデ→ロンドリーナ 1 日目
3 時に起きて、支度をして、サユリさんの旦那さんのエドゥアルドさんに空港まで送ってもらった。君枝さんもサンパウロで、親戚のナンカ(七日)があるらしく、6 時の飛行機に乗るため、一緒に空港に行った。先に君枝さんたちの飛行機が発った。沖縄で再会を約束して別れた。朝日がとても綺麗だった。私たちも 6 時 15 分の飛行機に乗り、クリチーバに向かった。クリチーバはロンドリーナに行くための乗り継ぎのみで、4 時間のトランジットがあった。ロンドリーナへ向かう飛行機がとても小さかった為、山城さんと、ロンドリーナはきっととても小さな田舎だろう想像していたのに、上空から見るロンドリーナはとても都会だった。ロンドリーナに着くと、以前恩納村の研修生だった国吉プリシーラさん、旦那さんチャーゴさんと娘さんのラティシアちゃん、名嘉真ロベルトさん、ルイーザさん夫妻が迎えてくれた。名嘉真夫妻は歯医者さんで、屋敷には広い庭があり、とっても立派だった。名嘉真さんのお宅で、プリシーラさんたちも一緒におしゃれなアフタヌーンティーをし、夕食は名嘉真さんのお宅の近くのピッザリアに行った。少し遅いディナーだったが、お客さんがいっぱいだった。ファミリーも多く、おしゃれなレストランだったが、普通にキッズルームがあったのが驚いた。ブラジルのピザはなかなかおいしい。

1 月 28 日(日)　ロンドリーナ 2 日目
セントラルの移動市場で朝食にパステオを食べた。やはり日系人がオーナーで、とても人気で常にお客さんがいて、オーダーして食べて帰るまでに 10 分弱と回転が速いのが特徴。市場はとても賑わっていて、散策していると、名嘉真さんのお知り合いにたくさん会った。お昼は、県人会館で私たちの歓迎会を開いてくれた。恩納村出身のみなさんが集まってくれて、ポットラック(一品持ち寄り)だった。ロンドリーナに恩納村出身者が多い事に驚いた。みんなに歓迎されとても嬉しかった。みなさんが持ち寄った料理に巻きずしや豆腐、餅があったりとやはりみなさん日本人だなと思った。3 世の若者とも交流をして、たくさん友達もできた。世代が若くなるにつれてだんだん日本語は話さなくなっているのがブラジルの移民のみなさんの現状の様だ。ただ、みなさん優秀で、大学に通ったりして英語を学んでいるので、私たちのコミュニケーションツールは、日本語・英語・ジェスチャーとフィーリング。しばらく交流をして、プリシーラさんのお母さんの実家にお邪魔した。プリシーラさんのおじいちゃんとおばあちゃんは、プリシーラさんのお母さんケイコさんのそのきょうだいが交代で介護をしている。お庭も見せてもらい、山城さんはお庭でチャーゴさんとバレーボールをして遊んでいた。チャーゴさんは水泳のインストラクターで、スポーツマンだ。夕食は、近くのレストランにプリシーラさん、チャーゴさん、ラティシアちゃんと一緒に行った。雰囲気のあるおしゃれバーレストランだったが、ここにも子ども達を面倒見る人がいるキッズルームがあった。大人はゆっくりご飯が食べられる。日本ではまだそういうレストランはあまり見ないが、とても良いアイディアだと思う。

1 月 29 日(月)　ロンドリーナ 3 日目
朝食を名嘉真さんのお宅で頂いて、以前名嘉真さんの歯科クリニックで、現在は長男のリカルドさんが経営しているクリニックを見学した。職員さんも多く、とても充実した施設で、歯型を作ったりもしていた。クリニックに近くのスーパーマーケットで、お昼の買い物をして、名嘉真さんの孫のメグミちゃん、マリアンナちゃんも一緒に名嘉真さんのお宅にもどった。お昼ご飯は前日から予告していた”バター焼き”。名嘉真さんのいう”バター焼き”は、ホットプレートで牛肉と野菜を焼いて、醤油とワサビだけのシンプルなソースに付けて食べるというもの。初めて食べる名嘉真家の”バター焼き”はとってもおいしくて、何回もおかわりをした。午後は、昨日の歓迎会でお会いした佐久間コリナさんの娘さんが経営するオーガニックショップへ行った。いま話題になっているグルテンフリーの品物が多く揃っていて、値段は普通の物より少し高いが、こだわっているお客さんが来店していた。私もお土産にグルテンフリーのクッキーとパスタを買ってみた。その後、ロンドリーナ大学の見学に行った。敷地が広いため車でドライブスルーをした。

ロンドリーナ大学は、名桜大学と姉妹校で毎年交換留学をしている。プリシーラさんもその一人だった。名嘉真夫妻と長男のリカルドさんとその子ども達、長女のロベルタさんとその娘マリアンナちゃんでモールのレストランで夕食を食べた。リカルドさんは、とても英語が堪能で、話す内容も知的だった。私も英語は勿論もっといろんなことを勉強する必要があると痛感した。子ども達も(名嘉真さんの孫たちも)プライベートスクールで英語を学んでいて、小学生なのに、とてもきれいな英語の発音をしていた。

1 月 30 日(火)　ロンドリーナ 4 日目
朝食はメグミちゃんとマリアンナちゃんが作ったキャロットケーキを食べた。朝食の後、県出身 2 世の仲程さんが営むスーパーへ行き、ロベルトさんおすすめのピーナツのお菓子をゲットした。お昼は、歓迎会でもお会いした田畑さんの経営するブラジル式バイキングレストランでご馳走になった。田畑さんの奥さんが恩納村出身の 3 世。佐久間コリナさん夫婦も一緒にランチをして、最後には田畑さん一家も一緒に記念撮影をした。歓迎式でお会いした荻堂ルイスさんとルイスさんのお母さんの荻堂絹さんに会いに行った。絹さんは村出身の 1 世で、私たちが恩納村から来たと言うと、とても喜んでくれていて、終始エキサイトした様子で、昔の写真をたくさん見せてくれた。お土産までもらって、短い時間だったが別れる時にはとても寂しそうだったので、私も寂しくなった。ルイスさんにビタミーナというアボカドのスムージーシェイクをご馳走してもらった。移民 100 周年記念に作ったという公園にも連れて行ってもらった。今年が 110 周年なので、ちょうど 10 年前に作った公園だったが、あまり人がいなかった。夕方はルイスさんのお宅に少しお邪魔した。プリシーラさんが迎えに来てくれて、ブラジルの Forró(フォッホー)というダンスレッスンを見に行った。ブラジルはサンバのイメージがとても強かったが、ペアで踊るフォッホーはブラジルのダンスのイメージを変えた。その後は、3 世 4 世の若者で集まって、交流した。佐久間コリナさんの孫の佐久間ホドリゴさんは幼少期を日本で過ごしたという事もあって、日本人のように日本語を話す。ホドリゴさんの弟のリカルドさんは、近日中に単身日本旅行して沖縄にも行くという事で、沖縄でタイミングが会えば是非再会しよう。今夜は、名桜大学からロンドリーナ大学へ交換留学に来ている知花ショウヘイさんが 1 年の留学期間を終了し、ロンドリーナを離れる(日本へ帰国ではなく若者ウチナーンチュ大会へ参加する為ペルーへ行くらしい)という事で、以前名桜大学に交換留学で行っていた中川エミさんと一緒にバスターミナルへみんなで見送りに行った。ブラジルの車はギア(マニュアル)が多く、エミさんもギア車だった。若者みんなでジュースを飲んで交流した。

1 月 31 日(水)　ロンドリーナ 5 日目
ロベルトさんとルイーザさんと一緒に朝食をしたあと、お昼前にプリシーラさんとお父さんのカオルさんが迎えに来てくれた。ビュッフェスタイルのレストランで食事し、パナマ州日本移民資料館へ向かった。ロンドリーナは歴史が浅くまだ80年くらいで、ロンドリーナの名前は小さいロンドンという意味らしく、モールや高速に架かっている陸橋なんかが、ロンドンをイメージさせるものだった。日本移民資料館は、86 歳の今津貞利さんにアテンドしてもらった。とても丁寧に移民の歴史を説明してもらった。最後に『(この資料館は)パナマ州の日系人の財産』だと言った言葉に重みを感じた。その後、プリシーラさんが働く、市議会館、市役所に連れて行ってもらった。市議には、5 名のスタッフがついて担当市議の活動や議会の準備などをしているという。バケーション中の市長室も見せてもらった。役所の職員の服装も結構自由で、男性は青色などのワイシャツにジーパン(シャツはジーパンにイン)がオフィススタイルらしく、女性は比較的自由でカルチャーショックを受けた。プリシーラさんが湖のほとりのカフェでアサイーご馳走してくれた。今夜は、バレーボールで若者と交流するという事になっていて、県人会館の隣の体育館に着く頃にはすでに何名かの若者がバレーボールをしていた。プリシーラさんの友人でダンスの先生をしていたというブラジル人男性とフォッホーを踊った。初めて踊ったが、とても楽しかった。山城さんは若者達とバレーボールで汗を流している間、私はプリシーラさんの娘のラティシアちゃんのクァームヤーをした。途中、プリシーラさんが足を痛めてしまい、来週ブラジルの日系人代表選手として大会に出ると言っていたし、とても心配だ。バレーボール交流のあと、みんなで日系人がオーナーの軽食(ハンバーガーやホットドッグなど)屋さんで、チキンサンドを食べた。チキンサンドとオリジナルソースが絶妙なバランスでとてもおいしかった。

2 月 1 日(木)　ロンドリーナ 6 日目
起きて、部屋を開けると、線香の匂いがした。今日は 2/1。仏壇の線香がまだついていたので、名嘉真さんはおそらくツイタチ(一日)のウチャトゥーをしたのだろう。お昼はシュラスカリアに行った。肉がメインなのに、いつもビュッフェの前菜を多くとってしまう。やっぱりブラジルの人は肉の方をたくさん食べるように前菜は少なめ。お腹いっぱい昼食を食べた後の移動はやはり眠気がおそう。1 時間半かけて、サンタマリナという所にコーヒー農園を見に行った。現オーナーの祖先が、コーヒー農園をするためにブラジルに移住して、1,200 ヘクタールの広大な土地を所有していた。見渡す限りの大自然はオーナーのもので、それを眺めながらのお庭でのアフタヌーンコーヒーはとっても贅沢だと思った。ブラジルに来て初めてコーヒーを口にしたが、飲みやすかった。帰りの車では、

沖縄の CD を聴きながら、みんなで歌った。ロンドリーナ最後の夜は 3 世 4 世の若者達が送別会を開いてくれた。彼らのお友達のブラジル人も来て、友達の輪が広がった。24 時間開いていてイートインできるコンビニで二次会もした。ロンドリーナ最後の夜も盛り上がった。

2 月 2 日(金)　ロンドリーナ→サンパウロ 1 日目
最後の食事を名嘉真夫妻とし、途中マリアンナちゃんも拾って、空港へ向かった。空港にはプリシーラさんとラティシアちゃん、お父さんのカオルさんが来てくれた。別れの時、大変お世話になった事を感謝すると、ロベルタさんはお父さんお母さんと呼ばれて嬉しかったと言ってくれた。みなさんとお別れのハグをして、ゲートに入る時は、涙がこぼれた。また絶対再会したい。ロンドリーナからサンパウロへ。サンパウロの空港では、アンドレさんのお父さんの棚原国雄さんと真栄城徳平さんが迎えてくれた。徳平さんはボリビアで会った、真栄城徳治(次男)さんの弟(五男)。サンパウロの通称東洋人街の日本食レストランでビュッフェの昼食をとった。マグロのさしみや、揚げたての天ぷらもあった。昼食の後はブラジル沖縄県人会の本部へお邪魔した。会長さんは不在だったが、島袋副会長とブラジル沖縄県人移民研究塾同人誌 群星(ムリブシ)の編集長の宮城あきらさんにお会いすることが出来た。みなさんとても歓迎してくれた。今晩と明日は、徳平さんのお宅にお世話になる。徳平さんは商店を営んでいて、今は息子のアキオさん夫婦が引き継いでいる。お店の二階が住宅で、徳平さんと奥さんと三女のトモミさん、アキオさんファミリーが住んでいる。徳平さんと市内を散策した。通りには、いろんな種類の商店があり、ウチナーンチュの店もいくつかあった。ここでもウチナーンチュが活躍していた。通りの最後まで歩いてあと、日系人がオーナーのスーパーマーケットで少し買い物をして、帰りはバスターミナルから路線バスを乗って帰った。徳平さんがお金を払わなくても良いと言って、お金は払わなかったが、何も言われなかった。システムがよく分からなかった。夕ご飯は、徳平さんの三女のトモミさんが用意してくれた。家庭的でとてもおいしかった。

2 月 3 日(土)　サンパウロ 2 日目
目が覚めたのは 5 時過ぎ。徳平さんが、屋上をランニングしている音で一度目を覚ましたが、二度寝をした。徳平さんは毎朝 5 キロのランニングをしているという。アロエを毎日皮ごとシリシリーして飲み、指先で全身を刺激するマッサージなど独自の健康法を持っている。朝ご飯のあと、国雄さんのお兄さんの栄一さんの家族で営んでいる鋼材店を見に行った。奥さんや娘さん、弟さんも一緒にお仕事をしていた。鋼材店は少し離れていているところにあり、18 名の

従業員を雇っているらしく、レジの前にはお客さんの行列が出来ていて、とても繁盛している。アンドレさんのお母さんの順子さんにも会うことが出来た。現役の警察の非番の日に警備員として雇っていた。やはり噂通りブラジルは治安が悪いらしく、国雄さんも何回か強盗に襲われたという。一軒家は危険なため、セキュリティがしっかりしているアパート（マンション）に引っ越したという。お昼はサンパウロの東洋街で、韓国料理レストランに連れて行ってもらった。南米発の韓国料理だったが、期待通りおいしかった。食事の後、ブラジル日本移民資料館に行った。ボリビアでも、ロンドリーナでも移民資料館を見学したが、ここサンパウロの資料館には、移民当時ジャングルだったイメージわかる動物のレプリカがいっぱいあった。結構リアルでかわいいものではなかった。その他、移民してきた当時の様子の動画がポルトガル語の解説とともに流れるモニターがあり、設置されてある受話器から日本語の解説が流れるというものはめずらしかった。資料館のあと、サンパウロ市内を散策し、日本人芸術家が作った日本のアートが盛りだくさんのジャパンハウスに行った。日本人の手の器用さやアートな感覚がブラジル人にはうけていて、お客さんが沢山いた。街はカンナバル直前という事もあり、若者たちが街のところどころでお祭り気分だった。女の子たちは、水着やレオタードにシースルーレースのふわっとしたミニスカート重ね着して、カチューシャをするのが、彼女たちのカンナバルファッションのようだ。とてもかわいかった。徳平さんのお孫さん(長男アキオさんの子ども達)のアリッサちゃんや、ダニエルくんとも仲良くなった。ダニエル君は BS フジのミ・ラ・イⅥ～小さな希望たちの賛歌(アンセム)～という番組でブラジルにいる日系 3 世として取り上げられ事があり、その時の DVD や 2 世や 3 世の演じた沖縄喜劇芝居を鑑賞した。2 世や 3 世の方が頑張ってウチナーグチで芝居をしていて、芝居の内容もとてもおかしかった。お願いして DVD に焼いてもらえばよかったな。

2 月 4 日(日)　サンパウロ 3 日目

今朝も徳平さんは日課のランニングをしている音がした。徳平さんはとても健康体。朝食は、サンパウロ市内に住んでいる弁護士で徳平さんの次女ヒサコさんも一緒にした。徳平さん、ヒサコさん、トモミさんと私たちで、サッカーミュージアムに行った。移動中、アイルトン・セナという名前の高速道路があった。ミュージアムは、サッカーが盛んなブラジルは世界的に有名な選手がたくさんいて、とても凝っていていた。聴覚や視覚を刺激するような内容になっていて、楽しかった。お昼は、シュラスカリヤに行き、焼いたチーズパンが私的にヒットだった。おみやげを買うために、ショッピングモールとディスカウントストアに連れて行ってもらった。徳平さんオススメの中近東の果物をドライ

にしたものやコーヒーを買ってくれた。夕食は、恩納村出身者で歓迎会を開いてくれた。国雄さんの弟・アンドレさんのおじさんの栄徳さんが MC で、カラオケ大会によく出ているため、とても MC 向きだった。国雄さんのお母さん、アンドレさんおばあちゃんにも会うことが出来きた。あまり私の地元宇加地の事を知っている人がいなかったこの南米研修で、美留出身の艶子さんは唯一宇加地の事を知っていて、「宇加地んちゅね」と言ってとても喜んでくれた。私もとても嬉しくなった。帰る前に会場に飾ってあった村旗の前での記念写真は、今回はあまり交流が出来なかったいろんな方々も、一緒に写真を撮りたいと言ってくれて、とても歓迎されていると改めて感じた。今夜は、国雄さんのお宅にお世話になり、私はアンドレさんのお部屋を使わせてもらった。お宅にはアンドレさんの獲ったトロフィーがたくさん飾ってあった。アンドレさんの実力はただ者ではない。

2 月 5 日　サンパウロ→イグアス

今日は敏夫さんのご厚意で、世界遺産のイグアスの滝に連れて行ってもらうという事で、朝 5 時に空港へ向かった。朝食は途中のサービスエリアで、チーズトーストを食べた。空港の駐車場で敏夫さんと会い、国雄さんとわかれた。海外の空港は、椅子やベンチではなく、空港の床に座っているのは普通だし、床で寝ている人もいる等みんながとても自由だということ。自由ってすばらしい。日本人も世間体ばかり気にしないで、もう少し自由になったらいいのにと思った。敏夫さんの借りたレンタカーで、イグアス国立公園へ向かった。イグアスは暑かったが、とても自然を感じることができ、気持ちがよかった。森の中を進み、川のところまでやって来ると、向こう岸はアルゼンチンだった。アルゼンチンの国旗が見え、アルゼンチン側からの観光客も見えた。ボートに乗って滝の近くまでいくツアーは、ほとんどの人が濡れるコースを選択していているが、私たちは濡れないコースを選んだ。みんな濡れる気まんまんで子どもも大人も水着を着ていた。濡れないコースとはいったものの、心配なので、敏夫さんが準備してくれた合羽を着て出発。滝が近くなるととても興奮した。大きい滝の近くではテンションがマックスになり、イグアスに圧倒された。「すごい」と「やばい」の連発だった。ボートから降りて、滝の近くまで歩いて行った。滝の近くは、滝の勢いで結構水が飛んできた。自然を堪能できた。ヨカッタ。ブラジル国外からの観光客が多いと感じ、日本人もちらほら見えた。お昼は、景色も良くて、生のライブも聞きながらの贅沢なビュッフェレストランでの食事だった。公園を後にし、敏夫さんが運転するレンタカーでドライブをした。パラグアイには自由に行き来できるらしく、国境付近にはパラグアイナンバーの車が多かった。パラグアイは携帯や電化製品の偽物を作っている(中国から経

由のものも含め)所らしく、信号待ちでも、携帯のフライヤー持ったパラグアイ人が、商品を売ろうと必死だった。時間が無く、パラグアイまでは行けなかったが、アルゼンチンやパラグアイにもいつか行ってみたい。飛行機でサンパウロに着いたのは 9 時を過ぎていて、それから車で移動、サントスに着いたのは 11 時頃だった。夕食は 24 時間オープンのアラブ料理のファストフードでサンドを食べた。いつも食べるファストフードと違い、おいしかった。それにしてもイグアスは最高だった。敏夫さんに感謝。

2 月 6 日(火)　サントス後半 1 日目
朝ごはんはキョウコさんが準備してくれたブラジリアンブレックファーストを頂き、洗濯をした。ブラジルの洗濯機は少し丁寧に洗い過ぎと思う。お昼は、キョウコさんが焼いてくれたサーモンを頂いた。大きいサーモンだったが、おいしかったので、ぺろりと完食した。午後は、モールに買い物に行った。サントスはビーチが近くにあるせいか、水着が安かった。ブラジル人は比較的ゆったり行動をする。レジに並んでいても、キャッシャーもゆっくり作業をしているし、私は、レジに並びながらキョウコさんとの約束の時間が迫っていたこともあり、もっとまわせるのに(効率上げらせれるのに)と思ったりしていた。夕食もキョウコさんがステーキを焼いてくれて、今日は一日キョウコさんの手料理をご馳走になった。キョウコさんは料理があまり上手ではないと謙遜していたが、とてもおいしく頂いた。敏夫さんとキョウコさん夫婦は性格が全然違うけど、すごく合っていてお似合いの夫婦だと思った。

2 月 7 日(水)　サントス後半 2 日目
キョウコさんが用意してくれた朝ごはんを頂いて、津嘉山家の近くてやっている移動市場に行った。移動市場は賑わっていて、以前キョウコさんが日本語を教えていた生徒さんが果物を売っていて、その場でパインを切って味見をさせてくれた。あまくてとてもおいしかった。キョウコさんの妹さんが市場の近くに住んでいるという事で、市場で買った果物を持って、お邪魔した。キョウコさんの妹さんの旦那さんは昔、県費で 1 年間沖縄に留学をしていたという事で、日本語がとても上手だった。精神科医をしているというキョウコさんの姪シモネさんは過去に何度も危険な目に遭遇した経験があるらしく、ブラジルは怖いと思った。市場に戻り、敏夫さんの甥のパステオ屋さんに行って、私はピザ味のパステオをぺろっと頂いた。やっぱりはおいしい。夏休みも終わったせいか、ビーチは年配の方が多い気がしたが、ブラジルでは日焼けしている方がモテるといい、老若男女ビキニを着て、肌を焼きまくっていた。私たちも、わずかな時間だったが、日焼けをした。ビーチから帰り、敏夫さんと一緒にモンテセラ

一へ。小さな電車に乗って頂上まで行き、以前、カジノだったという建物には当時の写真が飾らせていた。小さな教会もあり、サントスの町が一望でき、とてもおしゃれな景色で絶景スポットだった。その後、津嘉山家のお墓があるところへ連れて行ってもらった。棺よりも二回りほどの区画が各自の墓で、墓石に生没年と名前が彫ってあった。一見外からはアパートの様で、1 フロアに何百というお墓があり、それが十数階あった。年間の維持費を払い、管理してくれるという。基本的にブラジルは埋葬だが、最近は火葬も増えているという事だった。津嘉山家に帰宅すると、爆発音が連続的に聞こえたのは花火の音だった。カンナバル直前で、近所のパレードを開始する合図だった。キョウコさんと一緒に見に行った。ライブをしているトラックの前後に子どもからお年寄りまでノリノリで踊っていて、とても楽しそうだった。いつか本物のカンナバルを見てみたい。今夜は、津嘉山家のみなさんが集まって私たちの送別会を開いてくれた。敏夫さんの弟の則夫さん、操さんと奥さんのヒロミさん、義弟の大城さん、次女のユカリさんと旦那さんのハミーさん、長男のトモヒロさんと彼女のモニカさんもみんな集まってくれて、ギフトももらった。最後の夜という実感はあまりなかったが、ハグをしてみんなが帰る時に、さみしさがこみ上げてきた。ブラジル最後の夜もとてもブラジリアンだった。

2 月 8 日(木)　サントス後半 3 日目→帰国
最後の朝食は、キョウコさんがマンジョウカの粉でクレープを焼いてくれて、チーズを挟んで食べた。もちもちしていて、おいしかった。お昼ご飯はスーパーで買った牛肉をキョウコさんがステーキにしてくれた。昨日の市場で買った生地に、トマトとチーズを入れたパステオを解説も交えてながら揚げてくれた。キョウコさんのパステオは、お腹がいっぱいだったが、とてもおいしかった。荷造りをして、津嘉山家を後にした。キョウコさんは、また会いましょうと言って、さみしくなさそうに見えたが、私はとてもさみしかった。途中で、則夫さんをひろって空港に向かった。空港では、国雄さんと順子さんが待っていた。わかれの時、みんなでゲートの前で記念写真を撮った。シャッター押しをお願いした女性が、斜めに携帯を構えていて、それがおかしくてみんなで爆笑した。そのお陰で、泣かないですんだ。今回ブラジルみなさんにもボリビアのみなさんにも、とってもお世話になった。「イチャリバチョーデー」の意味を体感し、感謝の気持ちでいっぱい。本当にどうもありがとうございました。またいつかみなさんに再会したい。(敏夫さんはすぐに再会する気がする)ヒューストン経由で成田、成田から沖縄へ。那覇空港では、城野さんと与那城さん親子と母が迎えてくれた。私の友達 2 人もお帰りを言いに来てくれた。ただいま。
PS バディが山城さんで本当良かった。山城さんありがとう。オツカレサマ。

修 了 証

恩納村派遣第2号

長濱 茜 殿

平成29年度恩納村青年海外派遣事業に於いて、研修生として研鑽に励み、恩納村出身の海外移住者子弟等との絆を深めるとともに、国際交流に関する知識と経験を身につけられました。

よって研修修了したことをここ証します。

研 修 期 間 ： 平成 30 年 1 月 9 日～平成 30 年 2 月 10 日

研 修 先 ： ブラジル（サントス・サンパウロ・カンポグランデ・ロンドリーナ）・
ボリビア

平成 30 年 2 月 15 日
恩納村長 長浜 善巳

ブラジル、サンパウロ空港にて

津嘉山さん兄弟と

ブラジル料理フェジョアーダ

津嘉山操さんが作っているパステオ

夜の街並み

敏夫さんの仕事現場

津嘉山キョウコさんがボランティアしている厚生施設

津嘉山敏夫さんご家族と夕食

「オキナワ」に到着（ボリビア）

佐渡山安男さん・津嘉山修さんアツエさん夫妻・津嘉山昭さん

真栄城一夫さん一家と

広大な畑を見学

佐渡山秀さん宅を訪問

ｵｷﾅﾜ日本ﾎﾞﾘﾋﾞｱ協会訪問（H23研修生 真栄城弥生さんと）

CAICO見学

パスタやマカロニを配送（CAICO）

津嘉山美智子さんと息子の慎悟さん

真栄城徳治さんお宅訪問

H25年度研修生 エミコさん

渡久地政得さんのご家族と

H13年度研修生 津嘉山梢さん(左から2人目)

サンタクルス空港にて。みなさん大変お世話になりました！

カンポグランデ県人会の皆さんがお出迎え

市場で一番人気は沖縄そば

山内幸秀さんヨシコさん夫妻と

源河君枝さんと

カンポグランデのウチナーンチュの皆さん

山内盛光さんのご家族と

沖縄そば麺を作る源河君枝さんのご家族

日系3世4世のみなさんとも交流

ロンドリーナ空港到着

ロンドリーナ沖縄県人会館にて歓迎会

プリシーラさんの母親と祖父母

H21年度研修生 プリシーラさんご家族と食事

名嘉真健次ロベルトさん一家経営の歯科医院

ウチナーンチュのみなさんと交流

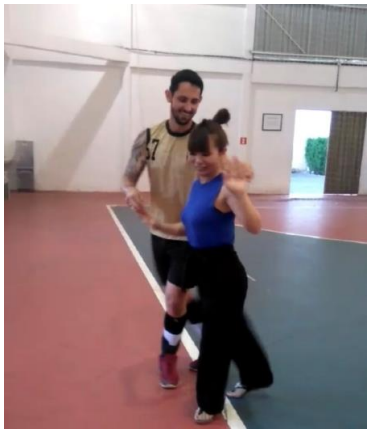
村出身荻堂絹さんと息子のルイスさん

パラナ州日本移民資料館見学

ロンドリーナの田村市議と(左から2人目)

ロンドリーナ市長のお部屋も見学

日系3世4世の若者とバレーで交流



ブラジル最も一般的な大衆音楽Forró(フォホー)ダンス体験

名嘉真ロベルト健次さんルイーザさん夫妻

名嘉真さんのお宅のハンモック

ロンドリーナの若者と送別会

ロンドリーナを出発

サンパウロに再々到着(ブラジル沖縄県人会訪問)

棚原栄一さん経営の鋼材店

真栄城徳平さんのご家族と

村出身者主催の歓迎会で棚原さん一家と

もちろん、いつものお店「Hikaru」で

私たちもカラオケ

アンドレさんのお父さん国雄さんとお母さん順子さん

ブラジルの曲で徳平さんとダンス

港湾都市サントスをモンテセラーから一望

キョウコさんがパステオを揚げてくれました

イグアスの滝も見学しました

最後の夜は、津嘉山敏夫さんのご家族と

帰国の刻。サンパウロ空港にて

ブラジル、ボリビアのみなさん大変お世話になりました！！！
(ブラジル パナマ州サンタマリナのコーヒー農園見学)

恩納村青年海外派遣事業実施規則

平成２９年３月３１日
規則第９号

（目的）

第１条　恩納村青年海外派遣事業（以下「この事業」という。）は、恩納村の青年を恩納村出身者海外移住国（以下「移住国」という。）へ派遣し、村人会等並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的とする。

（応募資格）

第２条　この事業に応募できる者は、次の各号に該当する者とする。

（１）　対象年度の４月１日現在、１年以上恩納村に本籍又は住所を有する者

（２）　原則として１８歳以上４０歳までの者

（３）　研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加できる者

（派遣人員）

第３条　派遣人員は若干名とし、当該年度の派遣人員は、恩納村青年海外派遣事業検討委員会（以下「委員会」という。）を設置して決定するものとする。

（申請）

第４条　この事業に応募する者は、様式第１号から第３号までの書類により申請するものとする。

（選考）

第５条　派遣する者は、前条の規定による申請者の中から選考により決定する。

２　前項の規定による選考は委員会で決定するものとする。

（研修費用）

第６条　恩納村を出発し、帰国するまでの往復旅費、研修期間中の滞在費、海外旅行保険料及びその他の研修に要する経費は、村負担とし、恩納村職員旅費支給条例（昭和４４年条例第３号）及び恩納村青年海外派遣事業交付金支給要領（平成２９年要領第１号）に準ずる。ただし、私的な経費は本人負担とする。

（交付申請）

第７条　交付金の交付を受けようとする者は、交付金交付申請書（様式第４号）を村長に提出しなければならない。

（交付決定）

第８条　村長は前条に規定する申請を適当と認めたときは、交付金交付決定通知書（様式第５号）を交付する。

（申請の取下げ）

第９条　交付決定通知を受けた者が交付申請を取り下げるときは、交付金の交付決定通知書を受けた日から起算して３０日以内に、交付申請取下げ書（様式第６号）を村長に提出しなければならない。

（取消し）

第１０条　村長は、交付金の交付決定後、次の各号のいずれかに該当することとなった者については、交付金の交付決定を取り消すことができる。

（１）　研修に参加できなくなった者

（２）　研修生として不適当と認められる事実が判明した者

（返還）

第１１条　第９条により交付申請を取り下げた者、又は前条により交付決定を取り消された者は、既に交付金の交付を受けている時は、村長が定める期日までに交付金の一部又は全部返還しなければならない。

（実績報告）

第１２条　交付金の交付を受けた者は、当該事業完了後３０日以内に実績報告書（様式第７号）を村長に提出しなければならない。

（研修内容）

第１３条　研修内容は、移住国の文化、産業等の異文化体験を通じて国際的な視野を広げるものとする。

（研修場所）

第１４条　研修場所は、村が指定する移住国とする。

（研修時期及び期間）

第１５条　研修時期及び期間は、毎年委員会で決定するものとし、おおむね１か月とする。

（研修生の義務）

第１６条　研修生は、次の義務を負うものとする。

（１）　報告

ア　日報を付けること

イ　研修報告を作成すること

（２）　親善事業

ア　研修前及び研修後において、村の主催する国際交流事業へ積極的に参加すること

イ　研修先及び村人会等の行う事業等に積極的に参加すること

（３）　その他

ア　研修期間中は、研修計画に基づき行動するものとし、所定外の行動をするときは、現地関係者と十分な調整を行うこと

イ　研修目的から逸脱しないこと

ウ　法令を遵守し、現地における村人会等及び研修先等との連絡を密にし、身の安全や健康管理には十分に注意すること

（研修体制）

第１７条　研修体制は、次のとおりとする。

（１）　移住国村人会等への協力依頼

村は、受入先の村人会等へ安全面並びに病気、怪我及び事故等の際の対応、処理又は連絡等の協力を依頼する

（２）　連絡体制

研修生は、村役場に適宜連絡を行うこと。研修日程等に変更がある場合には、その都度連絡すること

（保険）

第１８条　村は研修生の研修期間中にかかる海外旅行保険に加入する。

（帰国）

第１９条　研修終了後は速やかに帰国するものとする。ただし、特別な理由により村長が必要と認めた場合は、この限りではない。

（委任）

第２０条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は、村長が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

研修生派遣実績一覧

年度	第 回		氏名	性別	出身	派遣期間	月数	派遣先
29	1	恩納村派遣第１号	山城　修吾	男	恩納	平成30年1月9日 ～平成30年2月10日	1	ブラジル （サントス・サンパウロ・ カンポグランデ・ロンドリーナ） ボリビア
		恩納村派遣第２号	長濱　茜	女	宇加地			